

平成 26 年度

**和歌山信愛女子短期大学
自己点検・評価報告書**

平成 27 年 3 月

はじめに

本学の創立者メール・アンティエは、「愛と信頼をもって、神と人々のために生きる人を教育しよう」との強い意志をもって、今から百数十年前に中部フランスで多くの学校を創立しました。当時は、貧困に苦しみ、文字の読み書きさえできない人々の生活の向上と、社会に役立つ人づくりに献身しました。

本学は創立者の精神を基盤として、教育の質的向上に努めることはもとより、学生たちを育て、正しく判断して行動し、社会の人々に信頼される人間となるよう力を尽くしています。そのために教職員自身も教科内容、指導方法、学生の声などを絶えずふり返り、研究改善を続けています。

しかし、変化が急速で多様な現代社会によりよく適応し、すぐれた効果を挙げることは並大抵のことではありません。常に教育の見直しを行い、改善にも努め、自己点検評価についても積極的に取り組み、教育の質向上、教職員相互、学生教職員相互の人格の陶冶に励まなければなりません。特に、教育は机上の空論に終わることなく、実生活によりよく生かせるよう、知識と技術の錬磨を心がける必要があります。

また、本学は文部科学省のCOC事業に、「子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』」が採択されました。和歌山県唯一の保育士・幼稚園教諭・栄養士養成短期大学として、よりいっそう地域との結びつきを強め、地域を支える人材を育成するために、学生一人ひとりを大切にする教育に向け心を新たにしていって取り組む必要があります。

この報告書の各分野にもその努力の跡が見えますがまだ不十分な点も見られます。今まで以上に学生教育と地域貢献の目標達成に向けて邁進してゆかねばならないと思います。

2015年3月

和歌山信愛女子短期大学

自己点検・評価委員会

委員長 学長 森田登志子

I 建学の精神と教育の効果		
1. 教育の効果	(基準 I-B)	1
教育の効果の自己点検・評価の概要を記述する		
(a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する		
(b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する		
2. 教育目的・目標が確立している	(基準 I-B-1)	2
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
3. 学習成果を定めている	(基準 I-B-2)	3
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
4. 教育の質を保証している	(基準 I-B-3)	6
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
II 教育課程		
1. 教育課程	(基準 II-A)	9
教育課程の自己点検・評価の概要を記述する		
(a) 教育課程全体の自己点検・評価の要約を記述する		
(b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する		
2. 学位授与の方針を明確に示している	(基準 II-A-1)	10
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
3. 教育課程編成・実施の方針を明確に示している	(基準 II-A-2)	12
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
4. 入学者受け入れの方針を明確に示している	(基準 II-A-3)	16
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
5. 学習成果の査定（アセスメント）は明確である	(基準 II-A-4)	19
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
III 学生支援		
1. 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している	(基準 II-B-1)	22
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
2. 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている	(基準 II-B-2)	25
(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する		
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する		
3. 進路支援につて	(基準 II-B-3)	28
1) 就職支援について		

2) 就職の「率」と「質」および編入学について	
(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する	
IV 学生生活調査について	30
1) 回答数（回答率）	
2) 質問項目：	
3) 調査結果のまとめと考察	
4) 課題	
5) 集計結果	
2013年度 卒業生（全体）	
2013年度 卒業生（保育科）	
2013年度 卒業生（生活文化学科生活文化専攻）	
2013年度 卒業生（生活文化学科食物栄養専攻）	
2014年度 2年生（全体）	
2014年度 2年生（保育科）	
2014年度 2年生（生活文化学科生活文化専攻）	
2014年度 2年生（生活文化学科食物栄養専攻）	
V 授業の自己点検評価(教員)について	73
1) 集計結果	
2) 結果のまとめと考察	
VI 教職員アンケート（学習支援関係）について	74

【建学の精神と教育の効果】

I. 教育の効果（基準 I-B）

■教育の効果の自己点検・評価の概要を記述する。

(a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すため、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念（信愛教育理念）に基づいている。この建学の精神に基づき、本学および各科専攻の教育目的が設定され、学則に示されている。これらの教育目的は「ホームページ」、「学生募集要項」にて学内外に表明されるとともに、保護者には入学式後の保護者説明会で、学生には学生生活のてびきとカリキュラムマップ、新入生オリエンテーションおよび学年別、学期別オリエンテーションで周知を図っている。各学科専攻の教育目的・目標は、毎年度の教育課程の検討に合わせて、各会議（学科会議・専攻会議・教務委員会・教授会・運営会議・自己点検評価委員会）で定期的に点検し、教育課程の改編に合わせて必要な修正を行っている。

本学では、「愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づき、人として、職業人として、社会人として地域に貢献できる女性の育成を目標とし、全学および各科専攻の学習成果を定めている。また、「卒業率」、「資格・免許取得率」、「就職率」、1年次終了後と卒業時に実施する『学生生活調査』、平成25年度に実施した「本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート」、「学生論集」、保育科の「履修カルテ」、生活文化学科食物栄養専攻の「全国統一の栄養士実力認定試験」等、によって直接的、間接的に学習成果の測定を行っている。以上の測定結果は、運営会議、自己点検評価委員会、教授会において査定され、学習成果や教育課程の見直しに生かされている。これらの学習成果は、「ホームページ」や「カリキュラムマップ」、「シラバス」により学内外に表明している。

本学では、各学科・専攻において多様な免許・資格課程を有しているため、「教務委員会」が中心となり、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の順守の責務を担っている。さらに、各関連官庁からの法改正等による通達および事務連絡を、教務委員会のみならず、学長、学長補佐、各学科長、専攻主任にも回覧するなどして絶えず確認し、情報の共有化を図っている。その上で、関係学科専攻および関連部署との連携を取り、学則変更、規程の作成・変更を行う等、法令順守に努めている。

教育の向上・充実のためのPDCAサイクルの中心となるのが自己点検評価委員会である。毎年度、自己点検・評価報告書の形で教育成果がまとめられ、全教職員で共有される仕組みになっている。さらに、課題があると考えられる項目については運営会議や科専攻会議にかけられ、教務委員会、運営会議、教授会を経て教育課程の改善につなげられる。このほか、教育の向上・充実のために、「授業評価」に基づく、教員個人の授業改善がある。

(b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する。

自己点検・評価に基づく改善計画として、

- ①本学の教育目的・目標の一層の確立のため、学位授与の方針や学習成果との関連を明確にし、より具体的な教育目的・目標を設定する。
- ②学習成果については、学生や教職員への周知・浸透が不十分であり、組織的な改善活動を行う。
- ③教育の質保証においては、建学の精神に基づくリーダーシップある人材育成のため、カリキュラム改革を行う。
- ④学生生活調査・授業評価を中心とした、教育改善のための組織的なPDCAサイクルの構築があげられる。

教育目的・目標が確立している（基準 I -B-1）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すため、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念（信愛教育理念）に基づいている（幼きイエズス修道会 信愛教育 冊子）。信愛教育理念である五つの柱（1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育）を中心に、教育目的・目標を設定している。

学則には、第1条として、「本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする」と、本学の教育目的が明記されている（学則）。

各学科専攻における教育目的は、学則第5条に定められており（学則）、「ホームページ」、「学生募集要項」にて学内外に表明されている（ホームページ、学生募集要項）。また、教育目的・目標は特に重要であるので、保護者には入学式後に開催される保護者説明会で周知し（保護者説明会資料）、学生に対して、学生生活のてびきとカリキュラムマップに記載し（学生生活のてびき、カリキュラムマップ）、新入生オリエンテーションおよび学年別、学期別オリエンテーションで周知徹底している（新入生オリエンテーション資料、新2年生オリエンテーション資料）。

各学科専攻の教育目的・目標は、毎年度の教育課程の検討に合わせて、各会議（学科会議・専攻会議・教務委員会・教授会・運営会議・自己点検評価委員会）で定期的に点検し、教育課程の改編に合わせて必要な修正を行っている（科・専攻会議議事録、教務委員会会議議事録、教授会議議事録、運営会議議事録、自己点検評価委員会議事録）。

【保育科】

保育科では、建学の精神に基づき、「愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成」を教育目的とし、学則に定めている（学則）。

【生活文化学科生活文化専攻】

生活文化学科生活文化専攻では、建学の精神に基づき、「生活に関わる幅広い知識

と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成」を教育目的とし、学則で定めている（学則）。

【生活文化学科食物栄養専攻】

生活文化学科食物栄養専攻では、建学の精神に基づき、「食生活を通して人々の健康を維持・増進することに貢献できる専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成」を教育目的とし、学則で定めている（学則）。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

今後は、本学や各科・専攻の教育目的・目標において、さらに建学の精神を具現化するとともに、学位授与の方針や学習成果との関連を明確にする必要がある。そのために、より具体的な教育目的・目標の設定が不可欠であり、学生の実情や現代の社会情勢に応じた見直しが今後の課題である。

資料

幼きイエズス修道会 信愛教育 冊子
学則
学生生活のてびき
ホームページ
カリキュラムマップ
シラバス
学生募集要項
教授会議事録
科・専攻会議議事録
保護者説明会資料
新入生オリエンテーション資料
新2年生オリエンテーション資料
自己点検評価委員会議事録
運営会議議事録
教務委員会会議議事録

学習成果を定めている（基準 I-B-2）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学では、「愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づき、人として、職業人として、社会人として地域に貢献できる女性の育成を目標としている。そのため、以下の学習成果を定め、「ホームページ」や「カリキュラムマップ」に示している（カリキュラムマップ、ホームページ）。

- ①人間としての「キリスト教の教えを背景とした倫理観（態度・志向性）、教養・知性（知識・理解）、汎用的技能」
- ②職業人としての「専門的知識・理解・技能、統合的な学習経験と創造的な思考力」
- ③社会人としての「態度・志向性」

また、機関レベルで学習成果を測定する仕組みとしては、卒業率のほかに、1年次終了後と卒業時に実施する『学生生活調査』と、平成25年度に実施した「本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート」がある（学生生活調査、本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート）。また、科目レベルでは、授業を通じて獲得できる学習成果を、カリキュラムマップやシラバスに明記し（カリキュラムマップ、シラバス）、学生がそれを獲得したかどうかを査定することで成績評価を行っている（成績評価一覧）。

以上の測定結果は、運営会議、自己点検評価委員会、教授会において査定され、学習成果や教育課程の見直しに生かされている。

この基本に基づき、各科専攻ではそれぞれの教育目的に沿った学習成果を定めている。

【保育科】

保育科は、保育士・幼稚園教諭といった、専門保育者の養成を教育目的としている。そのため、以下の学習成果を定めている。

- ①人間としての「キリスト教的倫理観、知識・理解、コミュニケーションスキル、数量的スキル・情報リテラシー、論理的思考力・問題解決力、自己管理能力」
- ②職業人としての「教育的愛情、子ども理解、保育の指導力、社会性、統合的な学習経験と創造的思考力」
- ③社会人としての「社会的責任・チームワーク・リーダーシップ・生涯学習力」

これらの学習成果は、「ホームページ」や「カリキュラムマップ」、「シラバス」により学内外に表明している（カリキュラムマップ、ホームページ、シラバス）。さらに、教育課程レベルで学習成果を測定する仕組みとしては、「資格・免許取得率」、「就職率」（資格取得状況一覧、内定者一覧表平成26年度）のほかに、「履修カルテ」がある（保育科履修カルテ）。「履修カルテ」では、各学生の成績、学習成果到達度への自己評価と教員による評価が個人のファイルとしてまとめられており、学生個人が自己の学習成果の獲得状況の評価できる仕組みとなっている。さらに、2年次通年で行われる卒業必修科目「卒業研究Ⅱ」において、卒業論文の提出を課しており、統合的な学習成果を測定する仕組みとなっている（学生論集）。

学習成果の査定結果は、科内会議にて査定され（科・専攻会議議事録）、今後の学習成果の見直しにつながられている。

【生活文化科生活文化専攻】

生活文化学科生活文化専攻では、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を教育目的としている。そのため、以下の学習成果を定めている。

- ①人間としての「キリスト教的倫理観、知識・理解、コミュニケーションスキル、数量的スキル・情報リテラシー、論理的思考力・問題解決力、自己管理能力」
- ②職業人としての「感性豊かで創造的なデザイン力、情報に関する知識と技能、生活と職業に関する幅広い知識と技能、文化と社会に関わる専門的知識、医療・介護・福祉に関わる専門的知識と技能、統合的な学習経験と創造的思考力」
- ③社会人としての「社会的責任・チームワーク・リーダーシップ・生涯学習力」

これらの学習成果は、「ホームページ」や「カリキュラムマップ」、「シラバス」に

より学内外に表明している（カリキュラムマップ、ホームページ、シラバス）。さらに、教育課程レベルで学習成果を測定する仕組みとしては、「資格・免許取得率」、「就職率」がある（資格取得状況一覧、内定者一覧表平成26年度）。また、1年前期における「インターンシップ」は単位化し、体験実習先での評価も含め、就活力を早い段階で把握できる仕組みになっている。さらに、2年次前期に実施される「生活文化ゼミ」の成果を「学生論集」としてまとめることで、統合的な学習成果の測定に生かしている（学生論集）。

学習成果の測定結果は、専攻会議にて査定され（科・専攻会議議事録）、今後の学習成果の見直しにつなげられている。

【生活文化科食物栄養専攻の学習成果】

生活文化学科食物栄養専攻では、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を教育目的としている。そのため、以下の学習成果を定めている。

- ①人間としての「キリスト教的倫理観、知識・理解、コミュニケーションスキル、数量的スキル・情報リテラシー、論理的思考力・問題解決力、自己管理力」
- ②職業人としての「社会生活と健康に関する知識、人体の構造と機能に関する知識と技能、食品と衛生に関する知識と技能、栄養と健康に関する知識と技能、栄養の指導に関する知識と技能、給食の運営に関する知識と技能、統合的な学習経験と創造的思考力」
- ③社会人としての「社会的責任・チームワーク・リーダーシップ・生涯学習力」

これらの学習成果は、「ホームページ」や「カリキュラムマップ」、「シラバス」により学内外に表明している（カリキュラムマップ、ホームページ、シラバス）。さらに、教育課程レベルで学習成果を測定する仕組みとしては、「資格・免許取得率」、「就職率」のほかに（資格取得状況一覧、内定者一覧表平成26年度）、「全国統一の栄養士実力認定試験」があり（栄養士実力認定試験資料）、これを学生全員に課すことで、結果を個別に点検している。また、2年次前期に履修する給食管理実習Ⅲ（校外実習）では、実習先から報告される校外実習成績（10項目、5段階評価）により、個別に学習の成果を点検している（校外実習成績表）。2年次後期に実施される「卒業研究」の成果を「学生論集」としてまとめることで、統合的な学習成果の測定に生かしている（学生論集）。

学習成果の測定結果は、専攻会議にて評価され（科・専攻会議議事録）、今後の学習成果の見直しにつなげられている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

本学では、平成25年度に学位授与の方針をとりまとめ、それに基づいて学習成果を作成し公表した。そのため、学生や教職員への周知・浸透が課題である。各科専攻でのオリエンテーションやFD・SD研修会を通じて学生・教職員へのさらなる浸透を図っていく必要がある。

資料

カリキュラムマップ

ホームページ
シラバス
成績評価一覧
資格取得状況一覧
内定者一覧表平成 26 年度
保育科履修カルテ
栄養士実力認定試験資料
科・専攻会議議事録
教授会議事録
運営会議議事録
自己点検委員会議事録
学生生活調査
本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート
学生論集
食物栄養専攻校外実習成績表

教育の質を保証している（基準 I -B-3）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学では、各学科・専攻において多様な免許・資格課程を有しているため、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の順守の責務を「教務委員会」が担っている（学務分掌）。さらに、各関連官庁からの法改正等による通達および事務連絡を、教務委員会のみならず、学長、学長補佐、各学科長、専攻主任にも回覧するなどして絶えず確認し、情報の共有化を図っている。その上で、関係学科専攻および関連部署との連携を取り、学則変更、規程の作成・変更を行う等、法令順守に努めている（教授会議事録）。平成 23 年度に行った指定保育士養成課程の設置基準改正に伴うカリキュラム改正では、改正内容について保育科内で検討を行った後、「教務委員会」を通じて「教授会」に発議、審議され、「理事会」の承認を経て申請されている（教授会議事録）。書類作成については「教務委員会」を中心に行ったが、保育科長、保育科教務委員、教務部長、学長、学長補佐等、複数の目で、申請書類を確認し、不備のないように努めている。

学習成果を査定する仕組みについては、例えば「学生生活調査」に基づく査定システムが挙げられる（学生生活調査）。「学生生活調査」は、1 年次終了時および卒業時に全学生を対象に行われる。この集計結果は、運営会議ならびに自己点検評価委員会にかけられ、査定される。平成 25 年度卒業生を対象とした調査では、全卒業生 183 名中、165 名（回答率 90.2%）から回答を得ることができた。その中で、学生が良くなったと答えた学習成果は、「専門的な知識・技能」（83.0%）、「社会人としての責任感」（78.3%）、「一般的な常識や礼儀」（73.9%）、「幅広い知識や教養」（69.7%）、「チームで仕事する力」（67.3%）、「コンピュータの操作能力」（66.7%）であった。同様な結果は平成 26 年度新 2 年生を対象に行われた調査においてもみられた。この結果は、職業人としてや社会人として求められる能力が身についたと実感している

学生が多いことを示している。

また、平成 25 年度に実施した「本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート」調査では、進路・就職委員会が結果の査定を担っている。進路・就職委員会がまとめた報告書では、本学卒業生が、勤務状況において高い評価を得ている一方で、保育士・幼稚園教諭・栄養士といった専門的な知識・技能を必要とする職種において、やや低い評価となっていた（本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート）。

上記のような査定結果は、自己点検・評価報告書の形でまとめられ、全教職員に共有される仕組みになっている（自己点検・評価報告書）。さらに、課題があると考えられる項目については運営会議や科専攻会議にかけられ、教務委員会、運営会議、教授会を経て教育課程の改善につなげられる（運営会議議事録・教授会議事録・科専攻会議議事録）。

このほかの、教育の質の向上・充実のための PDCA サイクルとしては、教員個人の授業改善がある。本学では学生による授業評価を前期では 15 回目に、後期では 10 回目に実施している（授業評価）。教員はこの授業評価の結果を基に、課題を確認し、改善計画をたて、次年度のシラバス作成に生かし、教育の質の向上・充実に努めている（授業評価）。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する

平成 25 年度卒業生を対象とした学生生活調査の結果、「変わらない」か「悪くなった」と答えた学生が多いのが、「数理的な能力」(78.2%)、「リーダーシップ」(70.3%)、「キリスト教的倫理観」(69.1%)であった（学生生活調査）。平成 26 年度新 2 年生を対象に行った調査でも同様な結果が得られている。なかでも、「リーダーシップ」や「キリスト教的倫理観」の達成度が低い現状は、「愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という本学の建学の精神を体得できていない学生が多いことを意味している。「キリスト教と倫理」などの教養科目や「チャペルアワー」といった、建学の精神を中心とするカリキュラムの見直しが急務となっている。

また、授業評価の結果を全学的に評価し、改善に生かす仕組みがないのが現状である。全学的な FD 活動は実施されているが、授業評価の結果が反映されていない。組織的な教育改善活動における PDCA サイクルの確立が今後の課題となっている。

資料

学務分掌

教授会議事録

学生生活調査

資格取得状況一覧

内定者一覧表平成 25 年度

授業評価

本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート

運営会議議事録
教授会議事録
科専攻会議議事録
自己点検・評価報告書

【教育課程】

II 教育課程と学生支援

教育課程（基準Ⅱ-A）

- 教育課程の自己点検・評価の概要を記述する。

- (a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

本学の学位授与の方針は、愛の精神にあふれ高い教養と人間性を兼ね備えた女性を育てることを第一に掲げ、第二項では、職業人として必要な専門的知識・技能を示している。そして、最後の項では、地域社会のリーダーとなるのに必要な知識・技能の修得を要求している。この全学共通の学位授与の方針を基軸とし、各科専攻では、それぞれ独自の免許・資格養成課程に対応した学位授与の方針を定めている。

本学では、各科専攻の学位授与の方針に対応して、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー:CP）を定めている。本学の教育課程は、全学共通の「基礎教養科目群」と各科独自の「専門教育科目群」からなる。「基礎教養科目群」は、本学全体の学位授与の方針「人間として：女性として、キリスト教的倫理観を背景に、一人ひとりを大切にする愛の精神を体現し、高い教養と豊かな人間性を兼ね備えている」に対応して設定されている。一方、「専門教育科目群」は、各科が養成を目指す職業人像・社会人像に基づき、それぞれの分野で地域を支え、リーダーとなれる女性を育成すべく編成されている。さらに、教育課程の2年間における各期の教育目標を、1年前期「基礎力の育成」、1年後期「実践力の育成」、2年前期「専門力の育成」、2年後期「総合力の育成」と設定し、体系的に教育課程の編成を行っている。また、全学でゼミ形式の演習科目（保育：卒業研究Ⅱ・生活文化専攻：生活文化ゼミ・食物栄養専攻：卒業研究）を2年次に開講し、論理的思考力・課題探求力・問題解決能力・チームワーク力等、各分野の職業人として必要な総合力の育成に努めている。

本学は、人間・職業人・社会人を育てることを目指した学位授与の方針を基に、各学科専攻が求める学生像を入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー：AO）として、明確にし、入学希望者に示している。この入学者受け入れの方針に対応した入学者選抜の方法として、指定校推薦入学選考、推薦入学選考、AO入学選考、試験入学選考、大学入試センター試験利用入学選考が設けられている。

全学的な学習成果は、人間として、職業人として、社会人として必要な態度・知識・技術をとりまとめたものであり、どれも具体性のある内容となっている。特に、人間としての学習成果では、本学の教育理念を基に、「キリスト教的倫理観」の獲得を第一に掲げている。また、職業人としての学習成果は、各科専攻が養成する人材像と対応する形で設定されており、より具体性のある内容となっている。これら学習成果は、2年間の在学期間に達成可能な内容であると考えている。また、教育・保育・ビジネス・栄養の分野での高い就職率や、卒業生に対する就職先の評価からも、学習成果には実際的な価値がある内容となっている。

- (b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する。

学位授与の方針を明確に示している（基準Ⅱ-A-1）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する

本学の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は全学に共通する方針と、各学科専攻個別の方針から構成されている。全学共通の学位授与の方針は以下の通りである。

本学に2年以上在籍して所定の単位を修得し、以下に掲げる知識や資質を身につけた学生に対して卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。

- ①人間として：女性として、キリスト教的倫理観を背景に、一人ひとりを大切にす
る愛の精神を体現し、高い教養と豊かな人間性を兼ね備えている。
- ②職業人として：職業人として、その使命を理解し、専門的知識と技能を背景とし
た高い実践力と創造力で、現代社会の多様な問題解決に自ら率先して取り組むこ
とができる。
- ③社会人として：社会人として、地域社会の一員としての自覚と責任感を有し、真
摯な姿勢と高いコミュニケーション能力で、地域をとりまとめ、リーダーシップ
を発揮できる。

本学の学位授与の方針は、「愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育す
る」という信愛教育の理念に基づき、愛の精神にあふれ高い教養と人間性を兼ね備
えた女性を育てることを第一に掲げている。第二項では、本学の教育目標にある「職
業または实际生活に必要な能力を養成する」という目的から、キャリア教育を念頭
に、職業人として必要な専門的知識・技能を示している。そして、最後の項では、
「社会に貢献する女性を育成する」という教育目標に基づき、地域社会のリーダー
となるのに必要な知識・技能の修得を要求している。

この全学共通の学位授与の方針を基軸とし、各科専攻では、それぞれ独自の免許・
資格養成課程に対応した学位授与の方針を定めている。各科専攻の学位授与の方針
は以下の通りである。

【保育科】

本科に2年以上在籍して所定の単位を修得し、以下に掲げる知識や資質を身につ
けた学生に対して卒業を認定し、短期大学士（幼児教育）の学位を授与する。

- ①キリスト教の愛の精神を基盤に、豊かな教養と知性を背景とし、保育者として
の使命感・責任感を持って、子ども一人ひとりを大切にされた保育を実践できる。
- ②子どもや子育て、保育の包括的理解に関する専門的知識を修得し、保育現場で
子ども一人ひとりの生活や状況に応じて適切に対応できる。
- ③教育課程・保育課程を理解し、多様な表現力と子どもや保護者のこころに寄り
添う共感力を背景に、子どもの自主性を重視した保育を研究、立案、実行でき
る。
- ④知性と論理的思考力を背景に、子ども・子育てを取りまく社会問題を総合的に
分析し、具体的対策を立案、実行するなど、自主的に問題解決に取り組むこと
ができる。
- ⑤地域社会の一員としての自覚を持ち、生涯学び続ける態度が身についている。
また、職場や地域の人々と良好な人間関係を構築し、協力して物事を行うこと

ができる。

【生活文化学科生活文化専攻】

本科専攻に2年以上在籍して所定の単位を修得し、以下に掲げる知識や資質を身につけた学生に対して卒業を認定し、短期大学士（生活文化学）の学位を授与する。

- ①キリスト教の愛の精神に基づいて、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性と高い教養を兼ね備え、地域社会で幅広く活躍する女性としての使命感・責任感をもっている。
- ②多様な領域に関する専門的知識を修得し、これらの知識を必要とする領域で個性を発揮することができる。
- ③実社会において求められるマナーや情報スキル、事務処理能力が身についている。
- ④知性と論理的思考力を背景に、生活に関係する課題を総合的に分析し、具体的対策を立案、実行するなど、自主的に問題解決に取り組むことができる。
- ⑤地域社会の一員としての自覚を持ち、生涯学び続ける態度が身についている。
また、職場や地域の人々と良好な人間関係を構築し、協力して物事を行うことができる。

【生活文化学科食物栄養専攻】

本科専攻に2年以上在籍して所定の単位を修得し、以下に掲げる知識や資質を身につけた学生に対して卒業を認定し、短期大学士（栄養）の学位を授与する。

- ①キリスト教の愛の精神を理解し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた食に関わる専門家として活躍できる。
- ②人と食と健康にかかわる専門的知識を理解し、身につけている。
- ③食を通じて、人々の健康の維持・増進に貢献できる。
- ④知性と論理的思考力を背景に、食に関わる様々な意見や相手の立場を尊重し、自らの意見を柔軟に伝えることができる。
- ⑤女性として自らに誇りを持つとともに、地域社会の一員としての自覚を持ち、生涯学び続ける態度が身についている。

これら学位授与の方針をもとに、各教育課程において修得すべき「学習成果」が定められており、その対応関係はカリキュラムマップに示されている（カリキュラムマップ）。また、全学および各科専攻の学位授与の方針は、学則に記載され（学則）、ホームページや学生生活のてびき、カリキュラムマップに掲載し、学内外に表明されている（学生生活のてびき、ホームページ、カリキュラムマップ）。

また、各科専攻の学位授与の方針は、保育科では幼稚園教諭、保育士養成、生活文化専攻では各種資格取得や各種検定試験に合格、食物栄養専攻では栄養士養成のそれぞれの観点から現場で求められる人材像をもとに設定されており、社会的にも通用性があるものとなっている。

さらに、学位授与の方針は、平成25年度に策定されたため、実際的な点検活動に至っていないが、科専攻会議および自己点検評価委員会、教授会、運営会議において定期的に点検する仕組みとなっている（科専攻会議議事録、自己点検評価委員会議事録、教授会議事録、運営会議議事録）。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する

学位授与の方針は、平成 25 年度に作成され、学生や教職員にさらに浸透させていく必要がある。特に、授業担当者は、学位授与の方針を十分に理解し、担当する授業科目が担う役割をしっかりと把握した上で授業を展開することが重要である。その方策として、学習成果と各授業科目の関連を示す「カリキュラムマップ」を作成・配付し、意識づけを図っている。これらの試みを機能させることが今後の課題である。

資料

ホームページ
学生生活のてびき
カリキュラムマップ
学則
科専攻会議議事録
自己点検評価委員会議事録
教授会議事録
運営会議議事録

教育課程編成・実施の方針を明確に示している（基準Ⅱ-A-2）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する

本学では、各科専攻の学位授与の方針に対応して、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー:CP）を定めている。本学の教育課程は、全学共通の「基礎教養科目群」と各科独自の「専門教育科目群」からなる。「基礎教養科目群」は、本学全体の学位授与の方針「人間として：女性として、キリスト教的倫理観を背景に、一人ひとりを大切にする愛の精神を体現し、高い教養と豊かな人間性を兼ね備えている」に対応して設定されている。一方、「専門教育科目群」は、各科が養成を目指す職業人像・社会人像に基づき、それぞれの分野で地域を支え、リーダーとなれる女性を育成すべく編成されている。さらに、教育課程の2年間における各期の教育目標を、1年前期「基礎力の育成」、1年後期「実践力の育成」、2年前期「専門力の育成」、2年後期「総合力の育成」と設定し、体系的に教育課程の編成を行っている（カリキュラムマップ）。また、全学でゼミ形式の演習科目（保育：卒業研究Ⅱ・生活文化専攻：生活文化ゼミ・食物栄養専攻：卒業研究）を2年次に開講し、論理的思考力・課題探求力・問題解決能力・チームワーク力などの、各分野の職業人として必要な総合力の育成に努めている。

各科の教育課程編成・実施の方針は以下の通りである。

【保育科】

- ①一人ひとりを大切にする人間愛にあふれ、豊かな教養と知性を有した、心身ともに健康な女性を育てるために、基礎教養科目群と専門教育科目群を配置する。

- ②教育的愛情にあふれ、子どもを真に理解しようとする姿勢と、保育の実践力、対人関係能力を兼ね備えた保育者を養成するために、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を配置する。
- ③保育現場に起こる問題に臨機応変に対応し、新たな問題に対し自主的に問題解決に取り組むことができる、創造的思考力を持った人材を育成するために、実習科目、卒業研究、保育・教職実践演習（幼稚園）を配置する。
- ④地域社会の一員としての責務を認識し、生涯学び続ける態度を有するとともに、地域の人々と良好な人間関係を構築できる社会性と、奉仕の精神を身に付けた社会人を育成するために、専門教育科目群を配置する。

保育科は、学位授与の方針に示す保育者像を実現するために必要な能力を学習成果として定め、その実現のため教育課程の編成を行っている。特に、音楽・造形・体育分野における表現活動に関する演習科目を多く配置し、実践力の育成を重視した科目編成となっている。また、本科が独自に設置している科目として、「保育のこころ」を1年前期に置き、本科が目標とする保育者像や保育観を明確化させている。「ボランティア論」を単位化し、地域のボランティア活動に積極的に参加させ、奉仕の精神の育成や対人関係能力の向上を図っている。さらに、定められた実習以外に保育現場を体験する授業を組み入れることや、子育て支援の機関を学内に設置するなどの、専門保育者や子どもの姿に触れる機会を多くする工夫も行っている。

【生活文化学科生活文化専攻】

- ①キリスト教の愛の精神に基づいて、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性と高い教養を兼ね備え、地域社会で幅広く活躍する女性としての使命感・責任感をもっている。
- ②自らの個性を發揮して、地域社会で幅広く活躍できる能力を伸ばすために、「ライフデザイン」、「情報」、「キャリア」、「文化と社会」、「医療・介護・福祉」の5系列を配置する。
- ③ビジネス社会や家庭で起こる諸問題に臨機応変に対応し、多様な課題に対し主体的に問題解決に取り組むことができる創造的思考力を持った人材を育成するために、生活文化ゼミを配置する。
- ④地域社会の一員としての責務を認識し、生涯学び続ける態度を有するとともに、地域の人々と良好な人間関係を構築できる社会性と、奉仕の精神を身に付けた社会人を育成するために、専門教育科目群を配置する。

生活文化学科生活文化専攻は、学位授与の方針に示す多様な分野で活躍できる人材育成を目的とした教育課程の編成となっている。特に、学生の多様な資質に合わせ、「ライフデザイン」、「情報」、「キャリア」、「文化と社会」、「医療・介護・福祉」の5つの領域に対応した科目を選択することで、多くの資格・免許が取得できるカリキュラムとなっている。就職に直結する専門科目を開設していることも特徴であり、かつ1年次から就活力育成に努める工夫がなされている。1年次前期に、本専攻が独自に単位化している「インターンシップ」を、また、後期には「キャリアデザイン」を置いている。一方、「英語」や「日本語演習」は、演習科目であるが語学

力育成のために講師を複数配置し、科目に特徴と対応した少人数制の授業を導入している。

【生活文化学科食物栄養専攻】

- ①一人ひとりを大切にする人間愛にあふれ、豊かな教養と知性を有した、心身ともに健康な女性を育てるために、基礎教養科目群と専門教育科目群を配置する。
- ②少子高齢社会において、人々の健康の保持・増進に寄与する人材を育成するために、栄養士養成課程を専門教育科目群に配置する。
- ③論理的な思考力と知識・技能に基づく適切な判断と実践的な問題解決能力を養うために、実験・実習科目および卒業研究を配置する。
- ④良好な対人関係を構築するためのコミュニケーション能力を磨き、チームワークの重要性を認識してリーダーシップを発揮できる社会人を養成するために、専門教育科目群を配置する。

生活文化学科食物栄養専攻は、学位授与の方針に示す資質を持った栄養士を養成するために、教育課程の編成を行っている。特に、栄養士としての専門性を身につけるために、実習・実技に重点をおいた教科内容となっている。また、関連教科の講義と実験・実習を同学期に開講し、講義はクラス全員、実験・実習はクラスを2分割して小規模で実験・実習を年間開講することにより、専門的な実践力が身につくような編成を行っている。

教育課程における科目と学習成果との対応関係は、カリキュラムマップに示すとともに、シラバスにも明記している（カリキュラムマップ・シラバス）。また、成績評価は学則第15条に基づき、単位認定規程に照らして厳格に適用されている（学則、単位認定規程）。各科目における成績評価の基準は、その科目の学習成果や到達目標に対応する形で、シラバスにも明記されている。

上記内容を含め、シラバスには授業概要、授業の目標、学習成果、到達目標、授業内容、授業時間数、成績評価方法（成績評価の観点と割合）、教科書・参考書、準備学習の内容が明記されている（シラバス）。特に、学位授与の方針に対応した学習成果と到達目標や成績評価方法との対応関係を学生に伝えるため、その対応表をシラバスに示している。

各学科専攻の教員配置は各教員の専門性に対応したものとなっている（教員配置）。

【保育科】

保育士・幼稚園教諭を養成する教育課程編成・実施の方針に従い、専任・非常勤の教員を配置している。基礎教養科目、専門教育科目、教職科目等においては、教育・保育・福祉・保健・心理・音楽・体育・造形美術等の分野においてふさわしい研究実績・業績・教育歴を有した教員を配置している（教員配置）。専任教員は、教授4名、准教授5名、講師3名、助教2名となっている。

【生活文化学科生活文化専攻】

多様な分野で活躍できる人材育成を目的とした教育課程の編成・実施の方針に従い、専任・非常勤の教員を配置している。基礎教養科目と専門教育科目においては、「ライフデザイン」、「情報」、「キャリア」、「文化と社会」、「医療・介護・福祉」の

領域に対応した、研究実績・業績・教育歴を有した教員を配置している（教員配置）。専任教員は、教授2名、准教授2名、講師1名となっている。

【生活文化学科食物栄養専攻】

栄養士を養成する教育課程編成・実施の方針に従い、専任・非常勤の教員を配置している。基礎教養科目、専門教育科目、栄養士養成課程の科目においては、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」等の分野に対応した、研究実績・業績・教育歴を有した教員を配置している（教員配置）。専任教員は、教授3名、講師2名となっている。

教育課程については定期的な見直しを行っている。

【保育科】

定期的に行われる教育職員免許法ならびに同法施行規則および指定保育士養成施設指定基準の改正に応じて、大幅な教育課程の見直しが行われている。平成22年度には、指定保育士養成施設指定基準の改正に伴い、保育士養成課程ならびに幼稚園教諭養成課程の見直しを行い、平成23年度入学生より新たな教育課程としてスタートしたところである（学則変更届け）。

【生活文化学科生活文化専攻】

地域社会の要請にこたえ、地域で必要とされる人材の育成を目指し、本学独自の特色ある学生を育成するために、カリキュラムの改編を行っている。特に、近年は「医療・介護・福祉」の分野における人材育成に力をいれ、カリキュラム改編を行っている（学則変更届け）。また、クラス全員を対象とした卒業必修の実験・実習科目を見直す一方、新規に「生活工芸」のような選択科目を開設や、「インテリアデザイン」と「フードコーディネイト」を選択必修科目として組み合わせるなど、より多様な選択肢を設ける工夫を試みている。

【生活文化学科食物栄養専攻】

栄養士養成施設に関する規定が改正されるたびに、速やかに対応している。さらに養成施設としての基準に関係なく本学独自の特色ある学生を育成するために、カリキュラムの改編を行っている（学則変更届け）。その一例として選択必修科目がある。「介護概論」、「病理学概論」「食品学総論演習」「健康管理概論」の中から3教科を栄養士免許必修科目としている。基礎教養科目に栄養士としての基礎的な学習ができる「生活科学」を開講している。また、「臨床栄養学実習」に関しては、地域性や卒業生の就職先を考慮し、規定よりも1単位多く開講している。また、2年生の前期に「校外実習セミナー」、栄養士実力認定試験の準備講座として「食セミナー」を組み込んでいる。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する

今後も、学位授与の方針に対応し、地域社会に貢献できる仁・知・技に優れた人材を輩出するため、教育課程の定期的に見直しを続けていくことが課題である。生活文化学科生活文化専攻では、学生や地域のニーズを的確に把握し、迅速なカリキ

キュラムの改編を行っていくことが最も重要である。保育科と生活文化学科食物栄養専攻では、県下唯一の保育士養成施設あるいは栄養士養成施設としての基準を満たしつつ、各授業科目の教育内容・方法をさらに充実させ、他の養成施設との差別化を図っていくことが課題である。

資料

カリキュラムマップ
単位認定規程
シラバス
学則
教員配置
学則変更届け

入学者受け入れの方針を明確に示している（基準Ⅱ-A-3）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する

本学は、人間・職業人・社会人を育てることを目指した学位授与の方針を基に、各学科専攻が求める学生像を入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー：AO）として、明確にし、入学希望者に示している（ホームページ、大学案内、学生募集要項）。この入学者受け入れの方針に対応した入学者選抜の方法として、指定校推薦入学選考、推薦入学選考、AO入学選考、試験入学選考、大学入試センター試験利用入学選考が設けられている（学生募集要項）。

各科専攻の入学者受け入れの方針は以下の通りである。

【保育科】

- ①豊かな感性を持ち、子どもが好きで、人の為に役立ちたいという熱意のある人
- ②基礎学力を備え、幼稚園教諭・保育士になる為に意欲的に努力できる人
- ③鍵盤楽器の演奏能力がある人、保育に生かせる特技を持っている人、またはそれらを身に付ける意欲がある人
- ④多様な世代の人々と、良好な人間関係を築くことができる社会性のある人
- ⑤基本的な生活習慣や、マナーが身に付いている人

入学者受け入れの方針は、保育者養成を目指す保育科の学位授与の方針および学習成果に対応している。そのため、保育者になるための素養として把握・評価しておきたい入学前の学習成果が示されている。入学前の学習成果を把握・評価するために、各入学選考では以下の選考方法を実施している。特に、幼稚園教諭、保育士養成修学のために必要な基礎技術の一つであるピアノ演奏技術は、推薦、試験入試において「基礎技能テスト」を実施し判定している。また、ピアノ演奏技術あるいは体力・運動能力に優れている者を対象にAO入試を実施し、受け入れ方針に適合した学生確保に努めている。

入学選考	選考方法
指定校推薦入学選考	調査書 面接
推薦入学選考	調査書 面接 小論文又は自己アピール作文 音楽基礎技能テスト
AO 入学選考	調査書 エントリーシート 面接 基礎技能テスト（ピアノ演奏・基礎体力の評価）
試験入学選考	調査書 面接 筆記試験 音楽基礎技能テスト
大学入試センター試験利用入学選考	大学入試センター試験の結果（英語又は国語）

【生活文化学科生活文化専攻】

- ①身近な生活(衣・食・住)や文化、デザインに関心のある人
- ②入学後の学習に必要な基礎学力と問題意識を十分に持ち、本専攻が掲げる5系列（ライフデザイン、情報、キャリア、文化と社会、医療・介護・福祉）の学問に取り組むことができる人
- ③基本的なマナーと自己管理能力を有し、これからの社会を生きていく上で重要な力となる「医療事務」、「情報処理士」、「秘書士」などの資格を積極的に取得し、地域社会で幅広く活躍するために努力できる人
- ④クラブ活動、地域活動、社会活動などで積極的に自分の個性を伸ばしたいという明確な目的意識を持った人

入学者受け入れの方針は、「ライフデザイン」、「情報」、「キャリア」、「文化と社会」、「医療・介護・福祉」の分野で活躍する人材育成を目指す生活文化専攻の学位授与の方針と学習成果に対応している。そのため、入学までの学習経験や活動、学習への意欲の把握・評価を重視した内容となっている。各入学選考では以下の選考方法を実施している。特に、AO 入試においては面接を重視し、「アドミッション・ポリシー」に対応した、志望動機、進路意識、学習意欲に関する質問により受験生の適正を把握し、入学受け入れ可能な人物であるかの確認を行っている。

入学選考	選考方法
指定校推薦入学選考	調査書 面接
推薦入学選考	調査書 面接 小論文又は自己アピール作文
AO 入学選考	調査書 エントリーシート 面接
試験入学選考	調査書 面接 筆記試験
大学入試センター試験利用入学選考	大学入試センター試験の結果（英語又は国語）

【生活文化学科食物栄養専攻】

- ①人の痛みや苦しみに共感でき、感謝の心を持つ人間性豊かな人
- ②生物や化学に関心があり、食や健康について科学的に考えることができる人
- ③料理を作ることが好きで、栄養士になるために努力できる人
- ④人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力と協調性のある人
- ⑤食の専門的な知識と技能を生かし、社会に貢献したい人

入学者受け入れの方針は、栄養士養成を目指す食物栄養専攻の学位授与の方針および学習成果に対応している。そのため、栄養士になるための素養として把握・評価しておきたい入学前の学習成果が示されている。入学前の学習成果を把握・評価するために、各入学選考では以下の選考方法を実施している。特に、各入学選考で行われる面接では、本専攻教員が受験生の適正を把握し、「アドミッション・ポリシー」に対応した、志望動機、進路意識、学習意欲に関する質問、栄養士として必要な基礎学力（算数、化学、生物）の適合性、簡単な実技を対話形式で入学受け入れ可能な人物であるかの確認を行っている。

入学選考	選考方法
指定校推薦入学選考	調査書 面接
推薦入学選考	調査書 面接 小論文又は自己アピール作文
AO 入学選考	調査書 エントリーシート 面接と対話による基礎学力、実技の評価

試験入学選考	調査書 面接 筆記試験
大学入試センター試験利用入学選考	大学入試センター試験の結果（英語又は国語）

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する

入学者受け入れの方針が本学に志願する高校生にとって分かりやすいものであるかを定期的に点検していく必要がある。

入学者・受け入れの方針に基づく入学前の学習成果の把握・評価の方法については、今後さらに検討していく必要がある。入学選考については、AO入学選考と大学入試センター試験利用入学選考の受験者が増加する傾向が強まることが予想されるので、現行の選抜方法の見直していく必要がある。

入学者受け入れの方針にかなう新入生を学位授与の方針にかなう卒業生につなげるために、きめ細かな入学前ガイダンスを実施し、リメディアル教育を充実させて高校から短期大学への学習の橋渡ししていく必要がある。

資料

- ホームページ
- 大学案内
- 学生募集要項

学習成果の査定（アセスメント）は明確である（基準Ⅱ-A-4）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する

全学的な学習成果は、人間として、職業人として、社会人として必要な態度・知識・技術を取りまとめたものであり、どれも具体性のある内容となっている（カリキュラムマップ）。特に、人間としての学習成果では、本学の教育理念を基に、「キリスト教的倫理観」の獲得を第一に掲げている。また、職業人としての学習成果は、各科専攻が養成する人材像と対応する形で設定されており、より具体性のある内容となっている。これら学習成果は、低い退学率、高い卒業率・就職率に示されるように2年間の在学期間で達成可能な内容であると考えている（退学率、卒業率、就職率）。また、教育・保育・ビジネス・栄養の分野での高い就職率や（専門職就職率）、卒業生に対する就職先の評価からも（本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート）、学習成果には実際的な価値がある内容となっている。学習成果の測定は、機関レベルでは、卒業率のほか、全学生を対象とした「学生生活調査」を実施することで、測定可能な内容となっている（学生生活調査）。

各科専攻の学習成果の査定（アセスメント）状況は以下の通りである。

【保育科】

保育科の学習成果では、将来、幼児教育や保育の現場で働く保育者に必要な資質として、「教育的愛情」、「子ども理解」、「保育の指導力」、「社会性」など、職業人としての学習成果を具体的に定めている。これらの学習成果は、低い退学率に加え、高い卒業率や免許・資格取得率、就職率などが示すように2年間の在学期間で達成可能な内容と考えている（退学率、卒業率、免許・資格取得率、就職率）。特に、平成25年度就職希望者96名（卒業生99名）の内、幼稚園教諭や保育士等、専門職への就職率が94.8%と高いことから、実際的に価値のあるものになっている（専門職就職率）。また、学習成果は、全学的な「学生生活調査」に加えて、免許・資格取得率（免許・資格取得率）、各学生の成績、学習成果到達度への自己評価と教員による評価を個人のファイルとしてまとめた「履修カルテ」（履修カルテ）、2年次通年で行われる卒業必修科目「卒業研究Ⅱ」における「卒業論文」（学生論集）等により測定可能なものとなっている。

【生活文化学科生活文化専攻】

生活文化専攻では、「ライフデザイン」、「情報」、「キャリア」、「文化と社会」、「医療・介護・福祉」の分野で活躍する人材に必要な資質として、職業人としての「学習成果」を具体的に以下に定めている。「感性豊かで創造的なデザイン力」、「情報に関する知識と技能」、「生活と職業に関する幅広い知識と技能」、「文化と社会に関わる専門的知識」、「医療・介護・福祉に関わる専門的知識と技能」。これらの学習成果は、低い退学率に加え、高い卒業率や各種資格取得率、検定試験合格状況、就職率等が示すように、2年間の在学期間で達成可能な内容と考えている（退学率、卒業率、免許・資格取得率、検定試験合格状況、就職率）。特に、近年は、「情報」、「キャリア」といったビジネス分野のほか、「医療・介護・福祉」分野での人材育成に力を入れ、平成25年度は、就職希望者43名（卒業生44名）中、23名（53.5%）が事務総合職に、7名（16%）が医療事務分野に就職するなど、実際的な価値のあるものになっている（専門職就職率）。また、学習成果は、全学的な「学生生活調査」に加えて、資格取得率、検定試験合格状況、2年次前期に開講する「生活文化ゼミ」における研究成果をまとめた「学生論集」等により、測定可能なものとなっている。

【生活文化学科食物栄養専攻】

食物栄養専攻では、将来の栄養士に必要な資質として、「社会生活と健康に関する知識」、「人体の構造と機能に関する知識と技能」、「食品と衛生に関する知識と技能」、「栄養と健康に関する知識と技能」、「栄養の指導に関する知識と技能」、「給食の運営に関する知識と技能」等、職業人としての「学習成果」を具体的に定めている。これらの学習成果は、低い退学率に加え、高い卒業率や免許取得率、就職率等が示すように2年間の在学期間で達成可能な内容と考えている（退学率、卒業率、免許・資格取得率、就職率）。特に、平成25年度就職希望者33名（卒業生40名）中、栄養士就職率が63.6%と、高い専門職就職率を示しており、実際的な価値のあるものになっている（専門職就職率）。また、全国栄養士養成施設協会が実施する栄養士実力認定試験（毎年12月に実施）の受験を義務づけ、2年次に受験している。25年度の栄養士実力認定試験結果から、受験者全員が「栄養士としての資質が身に付いていることを示すB」以上の判定結果あった（栄養士実力認定試験）。これに全学的

な「学生生活調査」や、資格・免許取得率、2年次後期に開講する「卒業研究」における研究成果をまとめた「学生論集」等により、学習成果は測定可能なものとなっている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する

「学生生活調査」による学習成果の測定とその査定（アセスメント）は、平成25年度に導入し始めたばかりであり、その結果を教育改善につなげていくことが課題である。また、保育科が実施している「履修カルテ」を全学的に取り組むことも、将来の課題としたい。さらに、各科専攻の教育課程の学習成果を定期的に見直し、より实际的で充実した内容にしていく必要がある。学習成果の達成には、一つひとつの授業科目の充実を図ることが第一である。FD活動をさらに充実させながら取り組んでいきたい。

資料

カリキュラムマップ

シラバス

退学率

卒業率

就職率

専門職就職率

本学卒業生に対する就職先の評価に関するアンケート

免許・資格取得率

検定試験合格状況

学生論集

栄養士実力試験

【学生支援】

学生支援（基準Ⅱ-B）

学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している（基準Ⅱ-B-1）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

各教科の成績評価基準はシラバスに明示してある（シラバス）。全教員にはシラバス作成要領を通じて（シラバス作成要領）、学位授与の方針に対応した学習成果（カリキュラムマップ）を各教科の到達目標として学生主体で示すように求めており、その評価基準も具体的に定めている。このように、教員は学位授与の方針に対応した成績評価基準により学習成果を評価している。

学習成果の修得状況においては、「学生生活調査」の結果を運営会議、自己点検評価委員会を通じて各科長・主任、各種委員長が把握している（学生生活調査、運営会議議事録、自己点検評価委員会議事録）。学生生活調査では、家庭での学習時間も質問項目にいられており、家庭内学習による学習成果の修得状況の把握に努めている。また、本学ではクラス制をとっており、各クラスの担任・副担任が、学生の学習成果の到達状況を常に把握している（担任配置）。また、学生の学習状況は、各科専攻会議で議案・報告としてあげられ、全教員が学生の学習成果を把握できるようになっている（科専攻会議議事録）。また、教職課程を有する保育科では、「履修カルテ」を作成し、「保育・教職実践演習」担当教員が中心となって、学生の学習成果の修得状況の把握に努めている（履修カルテ、保育・教職実践演習シラバス）

学生による授業評価アンケートは、原則として全教科を対象に行っている。前期では前期終了科目を対象に、各授業の15週目に実施し、後期では後期終了科目と通年科目を対象に、各授業の10週目に実施している。アンケートは、「学生の授業態度」、「教員の教え方」、「授業内容」、「自由記述」など15の項目について行っている（授業評価アンケートシート）。評価結果は教科別、科専攻別、全体で集計され、教科担当者にアンケート実施後1ヶ月程度で示されるようになっている（授業評価アンケート集計結果）。特に、後期に授業の10週目で授業評価を行うことで、教員がその結果をシラバスに反映できるようにしている。さらに、教員に授業の自己評価報告書の提出を課し、今年度の課題と次年度へ向けての具体的改善策の策定を求めている（授業の自己評価報告書）。

FD活動では、FD委員会を中心に、年3回の研修会を行い、授業・教育方法の改善に努めている（FD委員会規程、FD研修会）。例年4月1日に行われる全体会議は、FD・SD合同研修会を兼ね、全専任教職員が一堂に会し、本年度の教育目標や教育活動計画の共有が図られる（全体会議議事録）。その目標に従い、前期1回、後期1回のFD研修会が実施される。さらに、教員相互の授業相互参観が前期1回、後期1回実施される（FD委員会議事録、運営会議議事録、教授会議事録、授業相互参観実施要領）。相互参観では、全2週間を参観週として設定し、全教員が他の教員による参観を受けるとともに、各2教科、他教員の授業を参観するシステムとなっている。参観した教員は、報告書を作成し、参観後に教科担当者と意見交流を行うようにしている（授業相互参観報告書）。このような授業担当者間での意思の疎通、協力・調整のほかにも、科専攻会議を通じて教科担当者間の意思の疎通を図るよう努めており、学習成果の達成に向けて協力できる体制となっている（科専攻会議

議事録)。

学科・専攻課程の教育目的・目標は、科専攻会議で常に共有されている。まず、学生個人の成績評価は、各クラス担任が把握している。また、保育科では1年次の履修状況は、2年生に行われる教育実習・保育実習の参加資格となっているため(学則)、実習担当教員も学生の履修状況を把握できるようになっている。履修状況において問題のある学生については、クラス担任および実習担当教員より、科専攻会議において報告がなされ、科専攻の全教員が共有できるようにしている(科専攻会議議事録)。

学生の履修および卒業にいたる指導は、各クラス担任と教務委員会の教員が中心となって行っている。毎年、新入学生を対象に行う新入生オリエンテーションでは、教員である教務部長が全学生を対象とした履修ガイダンスを行っている(新入生オリエンテーション資料)。その後、各科専攻に分かれて、各科専攻の教務委員の教員が、より詳細な履修指導を実施している(各科専攻新入生オリエンテーション資料)。また、新2年生に対しても、毎年4月1日に各科専攻教務が中心となってオリエンテーションを実施し、履修指導を行っている(2年生オリエンテーション資料)。さらに、学生個人に対しては、クラス担任・副担が中心となって履修および卒業にいたるまでの指導を行っている(担任配置)。このほか、常に科専攻会議で学生に対する情報を共有し合うことで、全教員が学習支援を行う体制を整えている(科専攻会議議事録)。

また、本学の全事務職員は、教員同様、毎年4月1日に行われる全体会議を通じて、本学の教育理念・教育目標・学習成果の理解をはかっている(全体会議議事録)。さらに、所属する各種委員会での業務を行うことで学習成果の把握に努め、学生の学習成果の修得に貢献している(学務分掌)。事務職員の内、教務職員は履修登録業務や成績処理、補講計画の作成等の業務を通じて、学生の学習成果の修得に貢献している。さらに、非常勤講師と専任教員との意志疎通を仲介し、出欠管理簿を通じた学生の履修状況の把握を通して、学科・専攻課程の教育目的・目標の達成状況の把握に努めている(教務書類)。一方、庶務職員は窓口業務を通じて、追再試験の受付や各種証明書類の申請時などに、学生と直接接して指導することで、学習成果の修得に貢献している(庶務における窓口業務)。また、進路・就職部の職員は、就職指導や編入学指導、TOEIC対策講座や公務員対策講座などを通じて学生の学習成果の修得に貢献するとともに(進路・就職部の体制、TOEIC対策講座、公務員試験対策講座)、就職内定状況を通じて各科専攻課程の教育目的の達成状況を把握している。

SD活動では、SD委員会を中心にSD研修会を実施するとともに、私立短大教務担当研修会など外部の事務研修会にも積極的に参加し、学生支援の職務充実に努めている(SD委員会規程、SD研修会、事務研修出張報告書)

事務職員のうち、教務担当職員は担任と連携しながら、受講登録における不備のチェックや、課題等提出物の確認などの業務を通じて学生への履修支援を行っている。また、庶務担当職員は、窓口業務を通じて常に学生と接する立場にあり、各種申請書類の提出や奨学金の手続き等において、学生の修学状況を把握し、卒業にい

たるまでの支援を行っている。

図書館には司書を3人配置し、学生の図書利用支援を行っている（学務分掌、図書館委員会規程）。

図書館には自由閲覧室を設け、図書館の本を自由に閲覧したり、自主学習を行ったりできるようにしている。また、カリキュラムおよびシラバスに基づき、教職員の意見を参考にしながら選書を行っている。特に、シラバスで指定された教科書および参考書はすべて購入し、図書館内に専用コーナーを設けて科目選択や学習の助けとなるように利便性の向上に努めている。また、全教員による選書や、図書館長と司書、教員、学生図書委員が中心となっていく「ブックハンティング」など、図書館の利用促進を図っている（ブックハンティング資料）。

教員は、パワーポイントを用いた授業や、資料の作成において、積極的にコンピュータを授業に活用している。事務職員にも全員コンピュータが配布され、日常の業務に活用している。さらに、全教職員にはメールアドレスが割り当てられ、メールによる情報配信や、会議等を通じて学校運営にコンピュータを活用している（教職員のメールアドレス）。

学内LANは、本学のすべての建物を網羅している。情報処理演習室、多目的コンピュータ室、視聴覚教室、セシリアホールでは、コンピュータをLANに接続させることができ、インターネットとも接続している。これらの演習室は授業で利用しない時間帯には開放し、自由に使えるよう配慮している（Ⅲ・C-1-1～Ⅲ・C-1-5）。学生の情報機器利用技術については、基礎教養科目群に「情報処理演習」を配置し、社会人など一部を除いて全学生が受講しており、その中で情報技術の向上を図っている。また、授業時間外や放課後など、自学自習ができるよう図書館職員および情報教育担当者によるサポートを実施している。教員に対してはメール設定やネットワーク設定、ソフトウェア活用支援など、技術向上に関する個別支援を行っている（シラバス（情報処理演習））。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

授業評価アンケートの結果については、担当教員にのみ開示し、授業改善につなげるのは個々の教員の努力に任せているところがある。授業評価アンケートの結果を授業改善につなげるには、FD委員会を中心とした組織的な改善活動が必要である。授業評価アンケートの結果を査定し、組織的な授業改善活動につなげるシステムの構築が課題となっている。一方、事務職員においては、各担当部署は教員と連携しながら学習成果の獲得に向けて努力している。しかし、事務職員間で職務により各科・専攻の教育目的や学習成果の把握に差が大きいことが課題となっている。

資料

シラバス

シラバス作成要領

カリキュラムマップ

学生生活調査

運営会議議事録
自己点検評価委員会議事録
担任配置
科専攻会議議事録
履修カルテ
保育・教職実践演習シラバス
授業評価アンケートシート
授業評価アンケート集計結果
授業の自己評価報告書
FD 委員会規程
FD 研修会
全体会議議事録
FD 委員会議事録
運営会議議事録
教授会議事録
授業相互参観実施要領
授業相互参観報告書
学則
新入生オリエンテーション資料
2年生オリエンテーション資料
学務分掌
教務書類
庶務における窓口業務
進路・就職部の体制
TOEIC 対策講座
公務員試験対策講座
SD 委員会規程
SD 研修会
事務研修出張報告書
図書館委員会規程
ブックハンティング資料
教職員のメールアドレス
シラバス（情報処理演習）

学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている（基準Ⅱ-B-2）

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学では、学習成果の獲得に向けて種々のガイダンスを行っている。全学的には、新入生を対象に入学後に行われる新入生オリエンテーションがある（新入生オリエンテーション資料）。ここで、教務ガイダンスとして、本学の教育方針、学位授与の

方針、科目の構成、単位、卒業要件、取得できる資格・免許、成績評価と単位認定等の説明を行っている。このほか、各学科専攻によるガイダンスが実施される。

【保育科】

保育科では、入学決定者に入学前ガイダンスを実施し（保育科入学前ガイダンス資料）、保育者となるための意識の高揚を図るとともに、入学までに取り組む課題を提示している。特に、ピアノ演奏技術は、レベルを確認した上で個別の課題を示し、必要に応じて入学までに数回の指導の機会を設けている。

入学後は、全学オリエンテーションに引き続き、保育科の新入生オリエンテーションが行われる（保育科オリエンテーション資料）。ここでは、本学保育科の教育目標と学生としての心構えのほか、学生生活での注意点、免許・資格取得のための単位履修要件、受講登録の方法等のガイダンスが行われる。

続いて、4月末には一泊二日で、1年生・2年生および教員合同の合宿研修が行われる（保育科合宿研修資料）。この研修では、集団生活を通じて、本学の建学の精神を体得し、保育者にとって必要なリーダーシップとチームワークを身につけることを目標としている。合宿の計画・運営は2年生が中心となって行っている。1年生は、指導者として皆のために働く2年生の姿を見ることで、1年後の目標を具体的に設定することができ、学習の動機付けの機会となっている。

7月の初めには、1年生を対象とした試験前ガイダンスが行われる。このガイダンスでは試験までの過ごし方、試験当日の対応、追試験・再試験など、単位認定までに必要な手続き等の説明を行っている（試験前ガイダンス資料）。

このほか、4月1日には新2年生対象の履修ガイダンスを実施し、科目の選択のためのガイダンス等を行っている（2年生ガイダンス資料）。

【生活文化学科生活文化専攻】

全学的な新入生オリエンテーションに引き続き、学外で、「フレッシュマンキャンプ」を2日間実施している（フレッシュマンキャンプ資料）。研修では、建学の精神を学ぶとともに、生活文化学科生活文化専攻のオリエンテーションが含まれている。資格取得のための履修方法、受講登録の仕方、卒業までの過ごし方、選択科目のためのガイダンス等を行っている。また、本学での学習意欲を高めるために、早々に専門教育科目を組み込んだ内容になっている。「キャリア」の分野では、本学の専任教員による基本的なマナー教育から、ホテルスタッフによるテーブルマナー講習会と充実した内容である。一方、「文化と社会」の分野では、醤油醸造業をはじめとした地場産業の町、湯浅町を訪れ、地域文化を学ぶ機会が設けられている。さらに、このような体験活動は、学生相互、学生と教員との親睦を深める動機付けの機会になっている。

このほか、4月1日には新2年生対象の履修ガイダンスを実施し、科目の選択のためのガイダンス等を行っている（2年生ガイダンス資料）。

【生活文化学科食物栄養専攻】

全学的な新入生オリエンテーションに引き続き、食物栄養専攻のオリエンテーションが行われる（食物栄養専攻オリエンテーション資料）。ここでは、食物栄養専攻の教育目的、学生としての心構えのほか、免許・資格取得のための履修要件、受講

登録の方法等、科目の選択のためのガイダンスが行われる。

また、4月下旬には、1年生・2年生および教員合同で1泊2日の合宿研修が行われる（食物栄養専攻合宿研修資料）。ここでは、共同生活を通じて学生間や教員との親睦を深め、活動を通じて建学の精神を学ぶプログラムが実施されている。特に、2年生が中心となって合宿の計画・運営に関わるため、2年生の指導力と、1年生の学習意欲の向上につながる内容となっている。

このほか、4月1日には新2年生対象の履修ガイダンスを実施し、科目の選択のためのガイダンス等を行っている（2年生ガイダンス資料）。

各学科専攻の学習成果の獲得に向けて、年度初めに「学生生活のてびき」、「シラバス」を発行している（学生生活のてびき、シラバス）。「学生生活のてびき」には、本学の教育方針、学科・教育課程、履修要領、学生生活ガイド、図書館利用案内などの学習成果の獲得に役立つ情報が掲載されている。

基礎学力が不足する学生に対して、各学科専攻が独自に補習授業等を行っている。

【保育科】

保育科では、基礎学力が不足する学生に対して、各教科担当者が授業外に個別に対応している。また、ピアノ等の基礎技能教科の担当者は、休暇中も希望する学生に対する補習授業を行っている（ピアノⅠ・Ⅱ補習計画）。さらに、学力だけでなく総合評価がなされる保育実習・教育実習の教科担当者は、休憩時、放課後を問わず個人別に対応し指導にあたっている。

【生活文化学科生活文化専攻】

生活文化専攻では、基礎学力が不足する学生に対して、各科目担当者は授業外に個別に対応している。さらに、希望者に少人数で補習授業を実施している英語のような科目もある（英語補習授業計画）。授業にともなう提出物、レポート作成に関しては、放課後に個人別にも対応している。

【生活文化学科食物栄養専攻】

食物栄養専攻は、基礎学力が不足する学生に対して、基礎教養科目の「生活科学」を能力別少人数クラス編成で開講している。期末試験や再試験直前には、希望者に規定の学習時間以外の補習を実施している。授業にともなう提出物、レポート作成に関しては、放課後に個人別にも指導を行っている。

本学では、クラス担任制を導入し、担任を中心に学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談に乗り、適切な指導助言を行う体制を整備している（担任配置）。各クラスの担任、副担任、学級担当が学生の悩みや相談に乗り、適切な指導助言を行っている。また、保健室や学生相談センターと担任、副担任は、学生への対応に関して密に連絡を取り合っている（学生相談センター案内・利用実績）。

進度の早い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援については、進路・就職部による、「TOEIC対策講座」、「公務員試験対策講座」等の課外講座がある。また、保育科では、10月に音楽学習発表会を開催し、2年次学生のうち、ピアノや器楽演奏において進度の速い学生に発表の機会を設け、学習意欲を高める取り組みを

行っている（音楽学習発表会）。生活文化学科生活文化専攻では、学習意欲を高める取り組みとして、秘書検定やフォーメタルスペシャリスト検定などのさまざまな検定支援を行っている。関係教員が個別の学習指導を担当しているが、簿記検定では、学外から講師を招聘して無料の簿記検定対策講座を開設している。

さらに、生活文化学科食物栄養専攻では、オーストラリア医療福祉研修に参加する学生の語学学習支援を行い、研修を修了した学生について学則第 56 条に従い、「医療秘書実務実習」を履修したのものとして単位を認定している（学則）。また、和歌山県栄養士会が開催する生涯教育や本学が開催する卒後教育である管理栄養士受験対策講座を無料で聴講できるように配慮している（生涯教育・管理栄養士受験対策プログラム）。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する

学習の動機づけのための仕掛けをさらに充実させる必要がある。特に、新入生オリエンテーションや合宿研修等は、新入生が大学での学習について情報を得る上で重要であり、内容の見直しと充実が必要である。基礎学力が不足する学生への対応としては、教科担当者や担任・副担による対応に加えて、より組織的な対応が課題となっている。基礎教養科目において、「基礎演習」というリメディアル教育を目指した科目を来年度より開設する予定であるが、教科の運用方法などの課題が多い。さらに、優秀な学生に対する学習上の配慮が、基礎学力が不足する学生への対応に比べて不十分であるという課題もある。

進路支援について（基準Ⅱ-B-3）

1) 就職支援について

本学では就職支援のため「進路・就職委員会」を組織し、活動している。(Ⅲ-A-3-1) 同委員会は、進路・就職部長を委員長として 2 年生担任に保育科長を加えて構成され、学生のキャリア教育および就職支援、4 年制大学への編入学支援などを行っている。年間の進路・就職指導計画を作成して計画的に活動し、各委員および教職員に対して随時活動報告を行っている。「資料閲覧室兼セミナー室」と「個別相談室」の 2 室からなる進路・就職室には、専任職員と事務補助員が常駐し、常時学生に解放され、各種関係資料の公開、キャリア相談、履歴書作成、模擬面接などの多面的な就職指導を行っている。

また、学生の社会人力の向上を図るべく、秘書技能検定、簿記検定などの資格取得に関する資料を常備し、個別指導を行っている。併せて、年間を通じ公務員試験対策講座、編入学試験対策講座、TOEIC 対策講座、一般常識試験、SPI 検査・SHL テスト・Web テスト対策講座などの各種講座を無料で開講している。

就職活動の状況を把握するために、2 年生全員の「就職内定一覧表」、「未内定者の就職活動管理表」を常時更新し、①就職および進学希望者数、②内定者数（率）、③内定先企業・事業所名、④都道府県・市町村、⑤職種、⑥専門資格、⑦産業分類などのカテゴリー別にデータベース化している。さらに、これらのデータを分析すること

により、月次ごとの就職内定率の年次比較表を作成し、全科専攻生の就職志望者数（率）、採用内定者数（率）の年次比較を行いながら具体的な数値目標を定め、状況に応じた対策や個々の学生に応じた指導を行っている。

進学・編入学に対する支援に関しては、編入学募集要項を資料閲覧室に常備して情報提供するほか、希望学生を対象に応募書類の作成や過去の入試問題の解析と指導、英語および小論文の編入学試験対策指導を行っている。

2) 就職および編入学の状況について

進路・就職委員会では「就職の率と質の向上」を目途に細やかな指導を行い、学生支援の充実を目指している。

「就職内定率」については、平成 23 年度（96.7%）、24 年度（99.5%）、25 年度（99.4%）と高水準にあり、本年度も平成 27 年 3 月中旬において 99.0%と例年並みに推移している。また「就職希望率」については、平成 23 年度（92.2%）、24 年度（93.3%）、25 年度（94.5%）と年々増加傾向にあり、本年平成 26 年度も平成 27 年 3 月中旬において 95.3%と順調に推移している。

一方「質」に関しては、栄養士職の採用形態に顕著にみられている。食物栄養専攻の栄養士職就職者における正社員採用の比率は、平成 23 年度（61.3%）、24 年度（51.5%）、25 年度（79.2%）と推移し、本年度（平成 27 年 3 月中旬時点）は 92.9%とこの 2 年間で飛躍的に伸びている。これは、給食委託事業者の「地域限定正社員」採用が増加したことによると考えられる。これまで、正社員採用者は、近畿全域での着任の可能性がある、自宅通勤を希望する場合は契約社員で採用されるという業界特有の雇用制度が見直されつつあり、改善に向かっている。

また、一般職就職者における事務職の割合については、平成 23～25 年度の平均 60.6%に対し、本年度は 80.6%（平成 27 年 3 月中旬時点）と増加している。全国的に見て依然として事務職の人気が高く、本学においても事務職を希望して入学する多くの学生のニーズに応えた結果となっている。

編入学に関しては、本年度の編入者数は 1 名と低調であったが、当該学生は 3 大学に合格しており、その合格校うち一般受験で合格した大規模私立大学農学部食品栄養学科への進学が決まった。昨年度より TOEIC や論作文を中心とした「編入学試験対策講座」を開講しており、これを受講した成果が出たものと思われる。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

若者の離職率の高さが社会問題となるなか、中・長期的な観点でキャリアアップを図るとともに、個々の学生の適性に合った就職指導をおこなう必要がある。

また、卒業生の 90%以上が地元就職をする本学にとって、地元の企業や事業所との密な連携が求められる。地域社会がどのような学生を必要としているかの調査を怠ることなく、実習やインターンシップ、合同企業説明会、企業・事業所訪問を通して短期大学と就職先との交流を深める必要がある。

【学生生活調査】

IV. 学生生活調査

学生の学習状況や、教育内容、教育支援、学生生活支援、施設への満足度、学習成果の達成度を調べるために、2年間の学習を修了した直後の卒業生ならびに、1年間の学習を修了した直後の学生を対象として、以下のような学生生活調査を行った。

調査対象は、平成25年度卒業生（以後、卒業生）ならびに平成26年度新2年生（以後、2年生）とし、実施時期は、卒業生は2014年3月14日（金）に、2年生は2014年4月1日（火）に行った。調査方法は、記述式のアンケート調査である。

1) 回答数（回答率）

2013年度卒業生

保育科 92名（92.9%）

生活文化学科

生活文化専攻 35名（79.5%）

食物栄養専攻 38名（95.0%）

2014年度新2年生

保育科 112名（98.2%）

生活文化学科

生活文化専攻 47名（94.0%）

食物栄養専攻 51名（100%）

2) 質問項目：

問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する
3. 真の友人を得る
4. 学問研究を通じて真理を探究する
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする
6. 資格を取り就職に役立てる
7. 目的は特に意識していなかった
8. その他

問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)

1. 授業に関する勉強
2. 授業とは関係ない勉強
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験
4. サークル・クラブ・部活動
5. ボランティア活動
6. アルバイト
7. 友達との交際
8. 趣味

9. その他

問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

予習

1. 1時間以内
2. 1～2時間
3. それ以上

復習

1. 1時間以内
2. 1～2時間
3. それ以上

課題

1. 1時間以内
2. 1～2時間
3. それ以上

問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか

※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性
2. 豊かな教養を身に付ける授業
3. 授業方法に工夫がある授業
4. 参加意識が持てる授業
5. わかりやすい授業
6. 興味が持てる授業
7. 和歌山地域を指向した授業内容
8. 親しみやすい、尊敬できる教員
9. 熱心な指導をする教員
10. 適正な成績評価
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業

※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業
3. 授業方法に工夫がある授業
4. 参加意識が持てる授業
5. わかりやすい授業
6. 興味が持てる授業
7. 和歌山地域を指向した授業内容
8. 親しみやすい、尊敬できる教員
9. 熱心な指導をする教員
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会
11. 適正な成績評価
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業

問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか

1. 科目履修に関する助言や指導
2. 就職や編入学など進路選択の励まし
3. 学習スキルを向上するための手助け
4. 教員の専門分野に触れる機会
5. 精神的なケアや励まし
6. 授業以外で教員と交流する機会

問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか

1. 担任による支援
2. 所属学科の教員の支援
3. 所属学科以外の教員の支援
4. 事務職員の支援
5. 学生相談室による支援
6. 保健室による支援(健康管理を含む)
7. 部活・サークル・学友会等、学生活動を支援する体制
8. 進路・就職支援の体制
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供

問7 以下の施設に、あなたは満足していますか

1. 建物・教室
2. 教室環境
3. 図書館
4. コンピュータ設備
5. 演習・実験・実習室
6. 廊下・階段・エレベータ
7. 休憩設備(学生ホールなど)
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)
9. 課外活動設備
10. ロッカールーム・トイレなど
11. 建物の出入り口
12. 駐輪場
13. 飲食設備
14. バリアフリー
15. 大学の開門・閉門時間
16. 大学の治安・安全性

問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

1. 学問に対する興味関心
2. 専門的な知識や技能
3. 幅広い知識や教養

4. キリスト教的倫理観
 5. 人とのコミュニケーション能力
 6. 一般的な常識や礼儀
 7. ひとつの問題を深く探求する態度
 8. 多様なものの見方を知って受け入れること
 9. 社会の現実的な問題への関心
 10. 社会人としての責任感
 11. チームで仕事する力
 12. リーダーシップ
 13. 自分で考え、行動する力
 14. 最後までやりぬく力
 15. 自分に対する自信
- 問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか
1. 文章表現の能力
 2. 数理的な能力
 3. 情報収集力
 4. プレゼンテーション能力
 5. コンピュータの操作能力
- 問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか
1. 就職して一生仕事を続けたい
 2. 結婚するまで仕事をしたい
 3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい
 4. 子どもが成長したら再就職したい
 5. 2～3年腰掛け的に仕事したい
 6. 家事・家業を手伝う
 7. 進学する
 8. 進路はまだ決めていない
 9. その他
- 問11 全体評価
1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)
 2. 全般的に授業に満足(専門科目)
 3. 全般的に学生生活に満足
 4. 全般的に施設・設備に満足
 5. 全般的に短大に満足
 6. 全般的に所属学科・専攻に満足
 7. 知識面・人間性において成長した
 8. 本学への進学を後輩に勧めたい

3) 調査結果のまとめと考察

【全体】

問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。

卒業生は、「資格を取り就職に役立てる」という回答が75.2%と最も多く、ついで「専門的な知識や高度の技術を習得する」の49.1%という結果となった。卒業生が、就職と直結する内容の学習を求めていることが分かる。

一方、2年生では、「資格を取り就職に役立てる」(78.1%)、「専門的な知識や高度の技術を習得する」(54.8%)が高く、卒業生と同様の結果が得られた。

問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)。

卒業生は、「授業に関する勉強」という回答が最も多く、回答者中の52.1%であった。ついで、「友達との交際」が33.9%となった。短期大学において、学生生活の大部分が授業を中心とした学習に割かれているという結果となった。

一方、2年生では、「授業に関する勉強」が57.1%と最高であり、「実習やインターンシップ等、職場での就業体験」(36.7%)、「友達との交際」(36.2%)と続いた。卒業生と同様に学生の生活が授業中心になっている現状が示された。

問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)。

卒業生は、予習では、90.7%の卒業生が、「1時間以内」と回答し、復習で「1時間以内」との回答が86.7%と、ほとんどが予習・復習に時間を使っていないことがわかった。その一方、課題では、「1時間以内」と答えた卒業生は34.2%であったが、「2時間以上」との回答が、36.1%、「1～2時間」が29.7%と、課題に多くの学習時間を割いている現状がわかった。

一方、2年生は、予習では、87.0%の学生が、「1時間以内」と回答し、復習でも「1時間以内」との回答が85.0%と、卒業生と同様にほとんどが予習・復習に時間を使っていないことがわかった。また、課題では、「2時間以上」(23.0%)、「1～2時間」(42.0%)と、こちらも卒業生とともに、課題に多くの学習時間を割いていた。

問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか。

卒業生は、一般教養・基礎科目では、「親しみやすい、尊敬できる教員」との回答が37.0%と最も多く、ついで「豊かな教養を身に付ける授業」が33.3%との結果であった。どの項目でも、満足度が4割を切っており、教養科目についてはほとんどの卒業生が満足していないとの結果になった。

専門科目では、「専門的な知識や技術を身に付ける授業」に51.5%の卒業生が満足しており、「実践(職業)で役立つ実学重視の授業」にも39.4%の卒業生が満足していると回答しており、教養科目に比べて授業内容への満足度が高いことが分かる。

その一方、教養科目、専門科目の両方とも、「授業方法に工夫がある授業」、「参加意識が持てる授業」、「わかりやすい授業」、「和歌山地域を指向した授業内容」、「適正な成績評価」、「私語が少なく学習環境に配慮されている授業」の満足度が2割以下、あるいは1割以下と低く、授業方法の改善が進んでいない現状が明らかになった。

次に、2年生では、一般教養・基礎科目では、「豊かな教養を身に付ける授業」(38.6%)、「興味持てる授業」(32.9%)と卒業生に比べて授業内容に満足している学生の割合が高い結果となった。しかし、どの項目も、満足度が4割を切っているのは卒業生と同様であり、教養科目について満足度が低いという結果になった。

専門科目では、「専門的知識や技術を身に付ける授業」に満足している学生が48.9%と最も高く、ついで「実践(職業)で役立つ実学重視の授業」が34.8%と、卒業生と同様な結果が得られた。満足度が2割以下の低い項目も、「授業方法に工夫がある授業」、「参加意識が持てる授業」、「わかりやすい授業」、「和歌山地域を指向した授業内容」、「適正な成績評価」、「私語が少なく学習環境に配慮されている授業」と、卒業生と全く同じ結果になった。

問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか。

卒業生は、「科目履修に関する助言や指導」において47.9%の学生が満足しており、「就職や編入学など進路選択の励まし」27.3%、「精神的なケアや励まし」23.0%、「授業以外で教員と交流する機会」24.2%と、「学習スキルを向上するための手助け」17.0%、「教員の専門分野に触れる機会」13.9%に比べて高く、卒業生が授業以外の学習・学生生活支援に満足している実態がわかる。

一方、2年生では、「科目履修に関する助言や指導」に50.0%の学生が満足しており卒業生と同様な結果になった。卒業生と異なる点は、「学習スキルを向上するための手助け」の満足度が28.6%と、卒業生の17.0%に比べて高く、逆に、「就職や編入学など進路選択の励まし」21.9%(卒業生27.3%)、「精神的なケアや励まし」15.2%(卒業生23.0%)、「授業以外で教員と交流する機会」11.9%(卒業生24.2%)と、卒業生に比べ2年生は教育以外で教員と関わる機会が少ないことがうかがえる。

問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか。

卒業生は、「担任による支援」(44.2%)、「所属学科の教員の支援」(42.4%)、「進路・就職支援の体制」(31.5%)には、比較的高い満足度が示された。しかし、「所属学科以外の教員の支援」(6.7%)、「事務職員の支援」(8.5%)が低く、学生生活へのサポートが所属する学科専攻の教員からのものに限られている実態が明らかになった。また、「部活・サークル・学友会等、学生活動を支援する体制」は1.2%と全く支持されておらず、本学において学生が主体となった活動がほとんど行われていない現状が示されている。

一方、2年生では、「担任による支援」(40.5%)、「所属学科の教員の支援」(31.4%)、「進路・就職支援の体制」(27.6%)、「学校行事やイベント等を通じた交流の機会」(23.8%)が卒業生と同様な高い満足度が示されたが、それ以外の項目において満足度が1割を下回るなど、学生は学生生活支援の面で満足していない結果になった。

問7 以下の施設に、あなたは満足していますか。

卒業生は、「図書館」(31.5%)と「コンピュータ設備」(34.5%)を除く多くの項目の満足度が10%にも届かないなど、ほとんどが学校設備に不満を抱いていることがわかった。

一方、2年生では、「図書館」が40.5%と高いものの、ほかの施設では比較的高い「コンピュータ設備」でも27.6%と満足度が3割を下回り、多くの施設設備に対して満足度が10%にも届かないなど、卒業生と同様に、学校設備に非常に不満を抱いていることがわかった。

問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか。

卒業生は、「学問に対する興味関心」、「専門的な知識や技能」、「幅広い知識や教養」、「人とのコミュニケーション能力」、「一般的な常識や礼儀」、「社会人としての責任感」、「自分で考え、行動する力」、「最後までやりぬく力」において、6割以上の学生が「良くなった」と答えている。その一方、「キリスト教的倫理観」や「リーダーシップ」において、「良くなった」と答えた卒業生の割合は3割以下であり、本学の学位授与の方針にある、カトリックミッションスクールとしての人間教育と、社会人育成教育の中心的ねらいが達成できていないという結果となった。

一方、2年生は、「学問に対する興味関心」、「専門的な知識や技能」、「幅広い知識や教養」、「人とのコミュニケーション能力」、「一般的な常識や礼儀」、「多様なものの見方を知って受け入れること」、「社会人としての責任感」、「チームで仕事する力」、「自分で考え、行動する力」、「最後までやりぬく力」において、5割以上の学生が「良くなった」と答えている。しかし、「キリスト教的倫理観」、「ひとつの問題を深く探求する態度」、「リーダーシップ」、「自分に対する自身」において、「良くなった」と答えた学生の割合は低く4割未満に留まっている。特に、「キリスト教的倫理観」と「自分に対する自身」において、「悪くなった」と答えた学生が5%を超え、ほかの項目と比較して高いのが目立った。

問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか。

卒業生では「コンピュータの操作能力」のみ「上達した」と答えた割合が65.5%と半数を超えていたが、それ以外はすべて、「変わらない」か「低下した」と答えた割合の方が高く、汎用的な技能育成の面で課題を残す結果となった。

一方、2年生はどの項目においても「上達した」と答えた学生の割合が4割を下回っており、卒業生と同様、汎用的な技能育成の面で課題を残す結果となった。

問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか。

卒業生では、「結婚するまで仕事をしたい」(36.7%)、「結婚して子どもができるまで仕事をしたい」(35.2%)、「子どもが成長したら再就職したい」(33.3%)と、多くが卒業後は仕事に就くものの、結婚や出産が女性のキャリア設計に影響を与えている実態が明らかになった。

一方、2年生では、「結婚するまで仕事をしたい」(31.0%)、「結婚して子どもができるまで仕事をしたい」(32.9%)、「子どもが成長したら再就職したい」(38.6%)と、卒業生と同様の結果が示された。

問1 1 全体評価

卒業生では44.2%が2年間学生生活を終えて、「知識面・人間性において成長した」と実感していることがわかった。しかし、「全般的に授業に満足(一般教養科目)」(29.1%)、「全般的に授業に満足(専門科目)」(33.3%)、「全般的に学生生活に満足」(37.6%)と、教育内容や学生生活に満足した卒業生は3割前後であり、「全般的に施設・設備に満足」と答えた卒業生は3.6%と少なく、その結果、「本学への進学を後輩に勧めたい」と答えた卒業生の割合は7.9%と、非常に厳しい評価となった。

一方、2年生では、「全般的に授業に満足(一般教養科目)」(33.3%)、「全般的に授業に満足(専門科目)」(36.2%)、「全般的に学生生活に満足」(28.6%)と卒業生と同様な結果が得られたが、「知識面・人間性において成長した」と実感した学生の割合は30.0%と卒業生(44.2%)に比べて低く、在学生のほとんどがまだ自身の成長を実感できていない様子が見える。さらに、「全般的に施設・設備に満足」と答えた在学生は10.0%、「本学への進学を後輩に勧めたい」11.4%と、卒業生と同様に厳しい評価になっていた。

【保育科】

本分析結果は、本学学生調査を、2013年度卒業生(保育科57期生)(以後、卒業生)と2014年度新2年生(保育科58期生)(以後、2年生)に行った結果をもとに比較考察したものである。

問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。

卒業生・2年生の調査結果は同様の傾向を示し、ともに77%が学生生活の目的を「資格を取り就職に役立てる」と答えている。ついで約6割(卒業生61%・2年生63%)が「専門的な知識や高度の技術を習得する」、約3～4割(卒業生43%・2年生35%)が「豊かな教養を身に付け人格を高める」と続いている。

約8割の学生が入学時から一貫して、専門職に就くという目的を持ち取り組んでいることがうかがえる。しかし9割を超える専門職への就職率を考えると、目的意識を持ち切れない約2割強の学生の意識付けが、現在も今後も課題となると考える。

問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)。

卒業生は、1位が「授業に関する勉強」に54%が注いでいると答えた。次に「実習やインターンシップ等、職場での就業体験」40%、「友達との交際」29%と続く。2年生も上位の順位は同じであるが、1位「授業に関する勉強」は卒業生より5%高い59%となり、「実習やインターンシップ等、職場での就業体験」も15%高く

なり 55%といずれも前年を上回る結果となっている。学習意欲の高まりを感じさせる結果と読み取れるが、質の高い保育者養成が求められていることから、更なる学生の意欲向上を求め、興味を持たせ理解させる授業の工夫に取り組まなければならないと考える。

問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)。

「予習」と「復習」に関しては、卒業生・2年生は同様の傾向を示している。1位「1時間以内」が8割(卒業生92%・2年生85%)を超え、ついで、「1～2時間」(・卒業生4%・2年生12%)であり、「それ以上」はほとんどなく、「予習」「復習」にかける時間は少なかった。

「課題」は前項目とは異なる結果となり、卒業生は、1位「それ以上」41%、2位「1時間以内」30%、3位「1～2時間」26%である。しかし、2年生は、1位に「1～2時間」47%、2位「1時間以内」31%、3位「それ以上」19%である。卒業生(卒業時の調査)は4割を超える学生が課題に2時間以上かけているのに対し、2年生(2年4月調査)は2割にすぎなく、ここに2年生の課題の多さが読み取れる。

問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか。

<一般教養・基礎科目>

卒業生の結果は、1位「豊かな教養を身に付ける授業」に42%が満足していると答えている。ついで、「親しみやすい、尊敬できる教員」28%、「興味が持てる授業」27%となっている。そのほか、2割以上が満足していると答えているのは「熱心な指導をする教員」23%、「選択できる授業の多様性」21%である。

2年生は、1位は同じく「豊かな教養を身に付ける授業」であり、卒業生より4%高い46%であった。2位は卒業生と異なり「興味が持てる授業」であり、卒業生より4%高い31%であった。3位に「親しみやすい、尊敬できる教員」前年と同じ28%となった。そのほか、「授業方法に工夫がある授業」は+9%の14%、「わかりやすい授業」は+7%の19%、「参加意識が持てる授業」は+2%の9%とわずかではあるが高くなっており、授業方法の改善の努力の成果ではないだろうか。今後継続して注目していく必要性を感じる。またその反面、「親しみやすい、尊敬できる教員」は同数だが順位を下げている。教員との関わりは2年生になり深まりを見せるからであろうか。また「熱心な指導をする教員」も23%から19%と減少傾向にある。「熱心な指導」は「授業の工夫」に置き換えられ評価されたからであろうかと考察する。

<専門科目>

卒業生・2年生ともに上位は同様の傾向を示している。養成校として当然の結果と考えられるが、1位に「専門知識や技術を身に付ける授業」、2位「実践(職業)で役立つ実学重視の授業」に満足している。しかし、1位「専門知識や技術を身に付ける授業」は、卒業生は58%が答えているのに対し、2年生は13%低い45%である。「実践(職業)で役立つ実学重視の授業」も卒業生は45%に対し、2

年生は40%となり5%減少している。反面、＜一般教養・基礎科目＞と同様に、「興味を持てる授業」は24%から30%に、「わかりやすい授業」は8%から19%に、「授業方法に工夫がある授業」は4%から8%に、「参加意識を持てる授業」は4%から10%へと低いながら増加していた。

この現象を、「興味を持てる・わかりやすい授業」が増えたという良い方に受け止めるべきであるか、入学生の学力低下傾向が専門知識の習得に難儀を示した結果か、また2年生ではより「専門知識」や「実学重視の授業」の重要性を感じたためか、この点も継続し注目すべき点であると考えられる。また、「親しみやすい、尊敬できる教員」は21%から17%に、「熱心な指導をする教員」も22%から16%へと減少している点も前項と同様に見ていきたい。

問5 教員の指導について以下の教育や学習支援にあなたは満足していますか。

1位は、卒業生・2年生ともに5割（卒業生52%・2年生51%）が「科目履修に関する助言や指導」に満足している。2位以降は異なる結果となり、卒業生は「就職や編入学など進路選択の励まし」23%、「学習スキルを向上するための手助け」17%、「精神的なケアや励まし」16%である。2年生は、「学習スキルを向上するための手助け」29%、「教員の専門分野に触れる機会」28%、「就職や編入学など進路選択の励まし」20%の順であった。

2年生では「学習に関する支援」への満足度が高く、卒業生では「就職・進路に関する支援」が高い順位となることは理解できる。しかし、毎年就職率100%の実績にもかかわらず、卒業時の調査で「就職・進路支援」に満足しているのは2割台と低かった。「就職・進路支援」に関して学生の要望にこたえられる対策を講じていかなければならないと感じる。

問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に満足していますか。

卒業生は、「所属学科の教員の支援」に50%が満足している。ついで「担任による支援」33%、「進路・就職支援」27%である。2年生（2年4月）は、「担任による支援」49%、「所属学科の教員による支援」29%、同じく「学校行事やイベントなど」29%となっている。1年生は「担任」による支援をよりどころとしているが、2年生ではゼミ活動等も盛んとなるためか「所属学科教員からの支援」に移行している。また、「学内行事活動などの支援」から「就職活動への支援」へと関心が移行していると読み取れる。しかし、学校生活のサポート体制に対してまだ満足していない学生も多い。更に満足度を高めるためには、一人ひとりの学生の心情を理解し、学生自身の独り立ちを目標とした、きめ細やかな支援を目指さなければいけないと考える。

問7 以下の施設に、あなたは満足していますか。

卒業生・2年生は同様の傾向を示し、1位はともに「図書館」で、卒業生は41%、2年生は49%が満足している。次に「コンピューター施設」に卒業生は34%、2年生は27%が満足している。続いて「建物・教室」は卒業生22%、2年生25%で

あった。課題レポートの作成や、教材研究等に「図書館」、「コンピューター施設」を活用していることがうかがえる。保育現場で役立つしかも時代の流れに沿った専門書や資料をそろえておくよう心がけていなければいけない。

問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

卒業生は養成課程の卒業期として、2年生は1年間の養成課程を終えた段階として比較し成長項目を見ていくと、1～15項目のうち7割以上の学生が養成課程の1年間あるいは2年間で成長したと自覚し答えた項目の数は、2年生は6項目があげられ、卒業生は8項目に増えている。

具体的に見ていくと、2年生の1位「専門的な知識や技能」83%となり唯一8割を超えている。ついで「一般的な常識や礼儀」79%、「幅広い知識や教養」77%、「チームで仕事をする力」と「最後までやりぬく力」72%である。卒業生では、9割近い学生が成長を感じているのは、1位「社会人としての責任感」89%、2位「専門的な知識や技能」88%の2項目である。ついで、「チームで仕事をする力」と「一般的な常識や礼儀」はともに79%、「幅広い知識や教養」78%、「最後までやり抜く力」76%、「人とのコミュニケーション能力」71%、「学問に関する興味関心」70%である。学生は、1年生の1年間で、「専門知識や技能」、「一般常識」、「教養」等に成長を、2年生では、「社会性」、「責任感」、「専門知識や技能」等に成長を感じていることが読み取れる。この結果は、本学の保育者養成課程におけるカリキュラムポリシーにかなったものであることを証明するものであると考える。

問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

前項目同様に、卒業生と2年生の結果を比較して見ていくと、2年生で5割を超えて上達したと感じているのは、「文章表現の能力」51%である。ついで、「情報収集力」38%、「プレゼンテーション能力」28%と続いている。卒業生では、1位「文章表現の能力」、「コンピューターの操作能力」とともに59%、ついで「情報収集力」55%が5割を超えている。唯一低下したと答えている「数理的な能力」以外は、成長を感じている。

問10 あなたは短大卒業後の進路についてどのように考えていますか。

卒業生は、1位は「子どもが成長したら再就職したい」39%、次に「結婚して子どもができるまで仕事をしたい」37%、「結婚するまで仕事をしたい」32%、「就職して一生仕事を続けたい」20%と続いている。2年生は、順位は卒業生と全く同じである。ただし、「子どもが成長したら再就職したい」は7%増え46%に、「結婚して子どもができるまで仕事をしたい」はわずかではあるが1%増え38%になり、「就職して一生仕事を続けたい」も1%減少して19%であった。卒業生よりも少しでも長く専門職に就いていたい意向が読み取れる。

問11 全体評価

卒業生は、「知識面・人間性において成長した」(46%)が一番多い。しかし、「一般的に学生生活に満足」36%、「一般的に授業に満足(専門科目)」29%、「一般的に授業に満足(一般教養科目)25%と低迷している。さらに、「一般的に所属学科専攻に満足」16%、「本学への進学を後輩に勧めたい」にいたっては、わずか10%である。2年生では、「一般的に授業に満足(一般教養)」38%が1位となり、「一般的に授業に満足(専門科目)」37%を上回っている。「知識面・人間性において成長した」が同じく37%、「一般的に学生生活に満足」22%、さらに、「一般的に所属学科専攻に満足」13%、「本学への進学を後輩に勧めたい」もわずか15%である。保育者養成校として専門職に9割を超える就職率を誇り、60年近い歴史を持つ本学保育科であるが、学生の在学中の評価は予想以上に低いものであった。このことを重視し問題点の改善に全力を挙げて取り組んでいかなければいけない。

【生活文化学科生活文化専攻】

本分析は、生活文化学科生活文化専攻60期生を対象に2013年度卒業時に「以後、卒業生」、61期生を対象に2年進級時の2014年度「以後、2年生」に実施した、本学学生調査結果を資料とした。

問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。

卒業生は、「資格を取り就職に役立てる」という回答が40%と最も多く、ついで、「学生生活を通じて青春をエンジョイする」(23%)、「豊かな教養を身に付け人格を高める」(14%)という結果であった。

2年生は、「資格を取り就職に役立てる」が卒業生と同様に35%と最も多く、ついで、「豊かな教養を身に付け人格を高める」(20%)、「学生生活を通じて青春をエンジョイする」(19%)の順であった。

いずれも、就職に役立つ資格取得を第一に求めていることから、検定対策講座などの資格取得に向けた学習支援の継承・発展が重要である。一方、「豊かな教養を身に付け人格を高める」意向もみられるため、実利的な学習だけでなく、幅広い教養育成にも取り組んでいかなければならない。

問2 あなたは、以下の活動のどれに力をそそいでいますか(いましたか)。

卒業生は、「趣味」(27%)が最も多く、ついで、「友達との交際」(23%)、「アルバイト」(21%)で、「授業に関する勉強」(15%)は4番目と低かった。

2年生は、「アルバイト」(25%)、「友達との交際」(20%)、「授業に関する勉強」(19%)の順である。そのために、「趣味」や「友達との交際」、「アルバイト」に力を注ぐ傾向が強く、「授業に関する勉強」には、あまり力を入れていない。授業以外の勉強も含め、学修が優先され、アルバイトや趣味を控える指導も視野に入れていかなければならない。

問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどのくらい力を注いでいますか(いましたか)。

卒業生では、予習において「1時間以内」との回答が91%、復習では97%と「1時間以内」が大半を占める。しかし、課題では「1時間以内」が65%であり、「1～2時間」が29%、「それ以上」が6%みられた。

2年生は、予習では85%が「1時間以内」と回答し、復習では88%であった。課題は「1時間以内」が55%、ついで、「1～2時間」が31%となり、「それ以上」が14%みられた。

比較すると、2年生の方が学修時間がやや長い、いずれも、予習、復習よりも課題に多くの学習時間を割いており、授業の進行と課題の与え方に注意を払う必要がある。

問4 授業内容・方法について、以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか。

一般教養・基礎科目では、卒業生は、「選択できる授業の多様性」、「親しみやすい、尊敬できる教員」がともに23%と最も多かった。ついで、「わかりやすい授業」(11%)、「興味もてる授業」(11%)である。それ以外は、すべてが1割以下であり、ほとんどの卒業生が満足していない結果であった。

専門科目では、卒業生は、「興味もてる授業」が20%であり、ついで、「親しみやすい、尊敬できる教員」が17%、「選択できる授業の多様性」と「豊かな教養を身につける授業」がともに15%であった。また、一般教養・基礎科目では、「和歌山地域を指向した授業」が9%であるのに対し、専門科目では0%であった。

さらに、「適正な成績評価」に関する満足度は低く、一般教養・基礎科目では3%、専門科目では2%であった。「私語が少なく学習環境に配慮されている授業」は、一般教養・基礎科目では0%、専門科目では2%であり、授業方法の改善が進んでいない状況が把握された。

2年生は、一般教養・基礎科目では、「選択できる授業の多様性」(29%)が最も多く、ついで、「わかりやすい授業」と「興味もてる授業」がともに15%であった。一方、「私語が少なく学習環境に配慮されている授業」が卒業生と同様に0%であった。

専門科目では、「選択できる授業の多様性」(27%)、「興味もてる授業」(17%)、「親しみやすい、尊敬できる教員」(15%)の順となった。一方、一般教養・基礎科目と同様に、「私語が少なく学習環境に配慮されている授業」が1%と低かった。

全体的に満足度は低く、とりわけ、成績評価や授業方法の改善に努める必要性がある。

問5 教員の指導について以下の教育や学修支援に、あなたは満足していますか。

卒業生は、「就職や編入学など進路選択の励まし」が25%、「科目履修に関する助言や指導」が24%、「授業以外で教員と交流する機会」が20%と、これらの項目では2割程度みられるが、それ以外は1割程度と満足度は低かった。

2年生は、「科目履修に関する助言や指導」(33%)、「就職や編入学など進路選択の励まし」(23%)、「学習スキルを向上するための手助け」(16%)が上位を占め

ている。また、「授業以外で教員と交流する機会」は11%と卒業生に比べて低く、授業以外で教員と関われる工夫が必要である。

全体的に教員の指導に満足していない実態が把握され、教育や学修支援方法を再検討していかなければならない。

問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学修支援に、あなたは満足していますか。

卒業生は、「担任による支援」(31%)、「進路・就職支援の体制」(29%)、「所属学科の教員の支援」(10%)を上位にあげている。一方、「所属学科以外の教員の支援」(3%)と「事務職員の支援」(5%)の満足度は極端に低く、学生生活へのサポート体制が所属学科専攻の教員に限られていることが明らかになった。また、「部活・サークル・学友会・学生生活を支援する体制」はわずか2%であり、本学において学生が主体となった活動への支援体制が機能していない現状が示されている。

2年生は、「進路・就職支援の体制」(37%)、「所属学科の教員の支援」(21%)、「学校行事やイベントを通じた交流の機会」(13%)、「担任による支援」(13%)が上位であり、その他の項目の満足度は1割以下であった。

そのために、学生生活のサポート体制に関しては満足していない傾向にあり、科専攻を超えた全学的な取り組みが必要である。

問7 施設に、あなたは満足していますか。

卒業生では、「コンピュータ設備」(35%)、「大学の治安・安全性」(13%)、「ロッカールーム・トイレなど」(10%)への満足が上位であるが、いずれも少なく、それ以外の項目では、1割にも満たなかった。

2年生は、「コンピュータ設備」(30%)、「施設・教室」(13%)、「ロッカールーム・トイレなど」(10%)となり、それ以外は卒業生と同様に1割以下であった。

そのために、卒業生、2年生ともに大半が学校施設に不満を抱いていることがわかり、施設の充実が学生募集にもつながるため改善計画が急務である。

問8 知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか。

卒業生は、「一般的な常識や礼儀」については80%が「良くなった」と回答し、ついで、「専門的な知識や技能」(71%)である。さらに、「幅広い知識や教養」、「社会人としての責任感」、「人としてのコミュニケーション能力」では57%が「良くなった」としている。一方、それ以外の項目では、「変わらず」の回答が5割以上みられた。しかし、「悪くなった」という回答は、「キリスト教的倫理観」(6%)、「自分に対する自信」(6%)のみであった。

2年生は、「専門的な知識や技能」(77%)、「幅広い知識や教養」(70%)、「一般的な常識や礼儀」(70%)の評価が高く、ついで、「人とのコミュニケーション能力」(55%)、「社会人としての責任感」(50%)である。その他の項目については

卒業生と同様に5割以下であった。その一方、「悪くなった」という回答が、「キリスト教的倫理観」(9%)、「自分に対する自信」(4%)などの6項目でみられた。

そのために、カトリックミッションスクールとしての人間教育が達成できていない結果が浮き彫りになった。関連項目での対応を検討するとともに、生活文化専攻や全学的な見地から取り組む必要性がある。

問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか。

卒業生は、「コンピュータの操作能力」について「良くなった」とする回答が74%あったが、それ以外の項目については半数以上が「変わらない」と答えている。とりわけ、「文章表現の能力」と「プレゼンテーション能力」が「良くなった」が20%しかなかった。

2年生は、「コンピュータの操作能力」について「良くなった」が70%と最も高く、ついで、「情報収集能力」(41%)と「文章表現の能力」(41%)と技能育成面では成果がみられたが、その他の項目においては大半が「変わらない」と答えていた。

そのために、幅広い専門分野をもつ本専攻において、基礎学力の補充も含め、多面的な課題を残す結果となった。

問10 あなたは、短大卒業後の進路についてどう考えていますか。

卒業生は、「結婚して子どもができるまで仕事がしたい」(24%)、「結婚するまで仕事がしたい」(22%)、「子どもが成長したら再就職したい」(19%)の順で、多くが卒業後は仕事に就くものの、結婚や出産が女性のキャリアデザインに影響を与えている実態が明らかになった。その一方で、「就職して一生仕事を続けたい」という回答も17%あり、就職に対する意識の高さがわかる。

2年生は、「結婚するまで仕事がしたい」(28%)、「結婚して子どもができるまで仕事がしたい」(22%)、「就職して一生仕事を続けたい」(20%)、「子どもが成長したら再就職したい」(17%)と、卒業生とやや順位が異なるが、人生設計の中でできる限り就業を希望する傾向がみられた。

就職指導時に、できるだけ各自の希望がかなえられるように留意していきたい。

問11 全体の評価

全体の評価は低く、卒業生は、「全般的に学生生活に満足」(25%)が最も高く、ついで、「全般的に授業に満足(専門科目)」(23%)、「全般的に授業に満足(一般教養科目)」(17%)の順であった。一方、「全般的に施設・設備に満足」はわずか2%である。また、「本学への進学を後輩に勧めたい」は4%と非常に厳しい評価であった。

2年生は、「全般的に授業に満足(専門科目)」(23%)、「全般的に学生生活に満足」(20%)、「全般的に授業に満足(一般教養科目)」(17%)が上位を占め、卒業生とやや順位は異なるが、同様の傾向がみられた。また、「全般的に施設・設備に

満足」は5%と低く、「本学への進学を後輩に勧めたい」は2%と、非常に厳しい評価であった。

卒業生や在学生の生の声が本学の評価や募集につながるため、施設・設備の改善に努めるとともに、後輩に勧めたくない理由を明確にして、改善に努めなければならない。

【生活文化学科食物栄養専攻】

本分析は、本学学生調査を、2013年度食物栄養専攻44期生を対象に卒業時に「以下 卒業生」、2014年度調査は食物栄養専攻45期生の2年次進級時「以下 2年生」に実施した結果を資料とした。

問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。

学生生活の目的は、「資格をとり就職に役立てる」の回答が、卒業生で71%、2年生88%と多く、ついで「専門的な知識や高度の技術を習得する」が卒業生47%、2年生61%と多かった。2年生で、専門職に就くという目標を持っていた学生が、卒業時に約2割減少し、「豊かな教養を身に付け人格を高める」と「真の友達を得る」が約2割増加した。

2年生では、専門職に就きたいと回答したが、卒業生では大きく減少している。理由として2年間で目的意識・持続力の低下が原因と推測されるため、今後、入学時の目的意識を持続できるような取り組みが必要である。

問2 あなたは、以下の活動のどれに力をそそいでいますか（いましたか）。

学生生活の活動は、「授業に関する勉強」が卒業生55%、2年生69%と多く、「人の交際」と「趣味」が卒業生39%・42%、2年生39%・35%と多かった。2年生・卒業生とも半数以上が、学習意欲がみられ、卒業生では、「交友関係」にも力をそそいでいた。

一方、卒業生・2年生ともに「サークル・部活動」と「ボランティア活動」と答えたものが5%未満と低かった。

今後、「授業に関する勉強」を維持しながら、それ以外の「ボランティア活動」などに取り組む意欲を育てていかなければならない。

問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどのくらい力を注いでいますか（いましたか）。

予習・復習の時間は、卒業生・2年生ともに「1時間以内」が多かった。課題に費やす時間については、卒業生は「2時間以上」の時間をかけている学生が45%と多かった。食物栄養専攻では、専門教科の実験実習が多く開講されており、その結果、レポートなどの課題が多いためと思われる。

課題の負担が重過ぎると、授業中の居眠りや時間中に課題をするケースも少なくないと推測される。今後、教科担当者間の課題などの提示が、重ならないように、調整が必要と思われる。

問4 授業内容・方法について、以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか。

※一般教養・基礎科目

授業では、卒業生、2年生ともに「興味が持てる授業」と「豊かな教養を身につける授業」が多く、教授法では、「親しみやすい、尊敬できる教員」と「熱心な指導をする教員」が多く、特に、卒業生は、それぞれ50%、37%と2年生に比べて増加しており、教員との関わりが深まっていると感じられる。

※専門科目

卒業生・2年生ともに「選択できる授業の多様性」が約60%、「豊かな教養を身に付ける授業」が約40%と同様の傾向を示した。食物栄養専攻では、栄養士養成施設の設置基準により、専門教科の縛りが多いが、選択できる授業の多様性があると感じていることは、開講科目に窮屈さを感じていないと思われる。卒業生の「学外体験（実習やインターンシップ）の機会」の増加は、学外実習を履修するためと思われる。

課題として「適正な成績評価」と「和歌山地域を指向した授業内容」の回答が10%未満と少ないことは、成績の評価方法と到達目標との整合性を見直し、県内にほとんどの学生が就職することから、地域性を考慮した科目の開講等も必要があると思われる。

問5 教員の指導について以下の教育や学修支援に、あなたは満足していますか。

卒業生、2年生ともに「科目履修に関する助言や指導」に満足しているが約半数あり、学期はじめの科目履修方法等の指導ができていると思われる。卒業生では「精神的ケアや励まし」と「授業以外で教員と交流する機会」が45%、「就職や編入学など進路選択の励まし」は32%と2年生よりも2割多くなっていることは、規模が小さく、担任・副担任・学年担当という制度などによるきめの細かい支援の結果と思われる。

課題としては、「教員の専門分野に触れる機会」と回答した者が10%未満であったことは、卒業研究などの指導を通して教員の専門性にふれる取り組みが一層必要である。

問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学修支援に、あなたは満足していますか。

2年次、卒業時ともに「担任による支援」と「所属学科の教員の支援」と回答した者が多く、卒業生で増加がみられた。食物栄養専攻は、50人定員と小規模の専攻であること実験・実習教科が多く、専任教員との密な交流の場が多いからだと考えられる。

問7 施設に、あなたは満足していますか。

卒業生、2年生ともに「バリアフリー」、「大学の開門・閉門時間」、「駐輪場」、「飲食設備」に満足しているものが少なかった。「教室環境」、「演習・実験・実習

質」、「ロッカールーム・トイレ」等は20%程度の満足度であり、今後、少しずつ改善をしていく必要がある。

問8 知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか。

卒業生の「キリスト教的倫理観」以外の項目について「悪くなった」と答えたものはわずかであった。ほとんどの項目で50%以上が「良くなった」と回答した。特に、「専門的知識や技能」82%、「社会人としての責任感」74%と「良くなった」と答えており、2年間の学生生活で専門性が培われていた。一方、「一つの問題点を深く探求する態度」と「リーダーシップ」に関しては約70%が「変わらなかった」であった。

2年生では、「専門的な知識や技能」76%、「幅広い教養」65%と「良くなった」と回答した者が多かった。ほかの項目については、約4割の者が「良くなった」と答えている。建学の精神である「キリスト教的倫理観」について、卒業生で低下している原因を検討しなければいけない。また、リーダーシップが取れるような取り組みも必要と考える。

問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか。

卒業生・2年生ともに「数理的能力」については、「変化がみられなかった」が多かった。両者を比較すると、卒業生になると「コンピュータ操作の能力」、「情報収集力」、「文章表現能力」、「プレゼンテーション能力」に大きな増加がみられ、2年間の学習の成果がうかがえる。

課題としては、すべての項目の学習能力をたかめていく必要がある。

問10 あなたは、短大卒業後の進路についてどう考えていますか。

「就職して一生仕事を続けたい」が2年生41%から卒業生24%に、「子どもが成長したら再就職したい」が2年生33%から卒業生21%と減少していた。一方、「結婚するまで仕事をしたい」が2年生31%から卒業生47%増加している。この変化の要因を分析することにより、学生が栄養士という職業の魅力を感じることができるよう育成することに取り組んでいく必要がある。

問11 全体の評価

「全般的に学生生活に満足」しているが、卒業生42%、2年生37%と多かった。また、卒業生は、「知識面・人間性において成長」したが55%と2年生の2倍以上と増加したことは、2年間の教育のたまものであろう。一方、「本学への進学を先輩に勧めたい」が10%弱であったことは、学生募集も含めてこの原因を分析して対処していく必要がある。

4) 課題

調査を受けて明らかになった本学の課題を以下に挙げる。

- ・授業以外の学生生活に不満を抱く学生が多い。

学生が中心となって活躍できる場を充実させる必要がある。学生が授業や補講で忙しく、クラブやサークル活動に充てる時間がないことが最大の課題である。

- ・学生は、課題に追われ、授業の予習・復習が十分にできていない。

予習・復習が必要となる授業計画の改善が求められる。その一方、課題の提出が集中し、ほかの授業に支障をきたしているケースも見受けられ、教科担当者間の意思の疎通が課題となっている。

- ・授業内容に比べ、教員の教育手法に対する学生の満足度が低い。

今年度より始まった授業の相互参観など、学生の理解や興味を高めるための授業改善活動（FD活動）の深化が求められている。

- ・学生への援助は所属する科専攻の教員に限られている。

科・専攻の枠組みを超えた、全学的な学生支援の充実が求められている。教員の方から積極的に笑顔で挨拶や言葉がけを行う等、所属の異なる教員にも気軽に学生が話しかけられる雰囲気作りがまず必要であろう。

- ・職員による学生支援が学生に評価されていない。

事務室窓口や図書館、就職指導室など、学生と直接関わる機会の多い部署での学生への対応を今一度見直し、学生の立場にたった支援を行っていく必要がある。

- ・建学の精神が学生に浸透していない。

来年度より新設される「信愛教育Ⅰ・Ⅱ」を中心に、本学の宗教教育を刷新する必要がある。カトリックの愛の精神を体現し、一人ひとりに心から語りかける教育が求められている。

- ・学生が、自信を失い、リーダーシップを発揮できていない。

教員主体から学生主体への教育スタイルの転換が求められている。アクティブ・ラーニング*や、課題解決型学習を積極的に導入し、学生の主体性を育む教育が必要である。

*学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称

- ・学習の基盤となる汎用的技能が育成できていない。

来年度より新設する「基礎演習」のように、リメディアル教育科目や講座のより一層の充実が求められている。

- ・学生は施設設備への不満が多い。

長期的展望を持った将来構想に基づく施設設備改善計画の策定と実施が早急に求められている。

以上の課題を解決し、卒業生や在学生在が母校に誇りを持てるようにしなければならない。

5) 集計結果

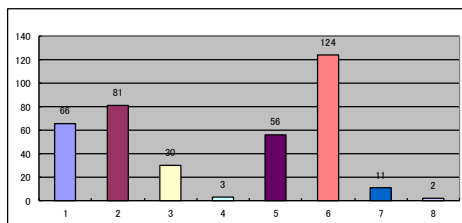
2013年度 卒業生 (全体)

学生生活調査 2013年度

全体 回答総数: 165人

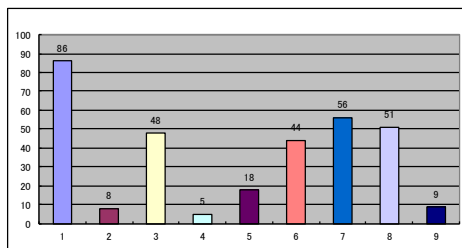
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。(複数回答可)

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	66
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	81
3. 真の友人を得る	30
4. 学問研究を通じて真理を探究する	3
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	56
6. 資格を取り就職に役立てる	124
7. 目的は特に意識していなかった	11
8. その他	2



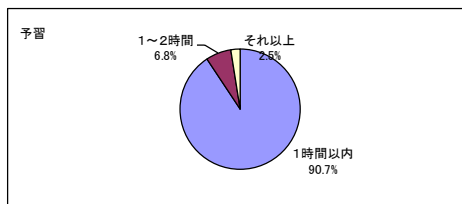
問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

1. 授業に関する勉強	86
2. 授業とは関係ない勉強	8
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	48
4. サークル・クラブ・部活動	5
5. ボランティア活動	18
6. アルバイト	44
7. 友達との交際	56
8. 趣味	51
9. その他	9

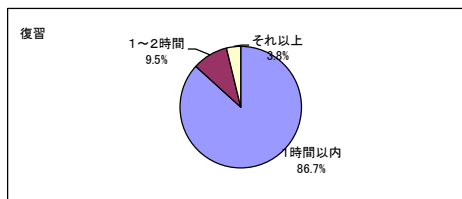


問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

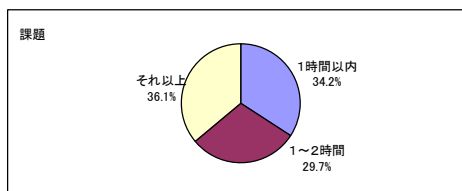
予習	
1. 1時間以内	146
2. 1～2時間	11
3. それ以上	4



復習	
1. 1時間以内	137
2. 1～2時間	15
3. それ以上	6



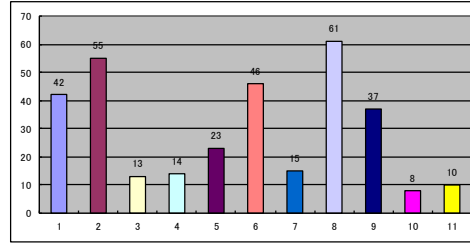
課題	
1. 1時間以内	54
2. 1～2時間	47
3. それ以上	57



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

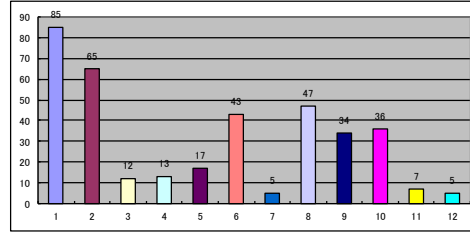
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	42
2. 豊かな教養を身に付ける授業	55
3. 授業方法に工夫がある授業	13
4. 参加意識が持てる授業	14
5. わかりやすい授業	23
6. 興味が持てる授業	46
7. 和歌山地域を指向した授業内容	15
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	61
9. 熱心な指導をする教員	37
10. 適正な成績評価	8
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	10



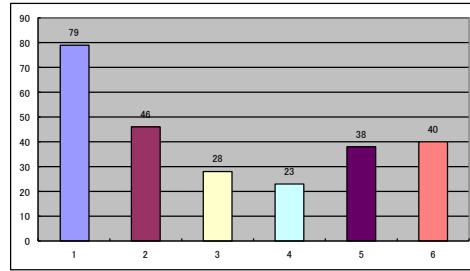
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	85
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	65
3. 授業方法に工夫がある授業	12
4. 参加意識が持てる授業	13
5. わかりやすい授業	17
6. 興味が持てる授業	43
7. 和歌山地域を指向した授業内容	5
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	47
9. 熱心な指導をする教員	34
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	36
11. 適正な成績評価	7
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	5



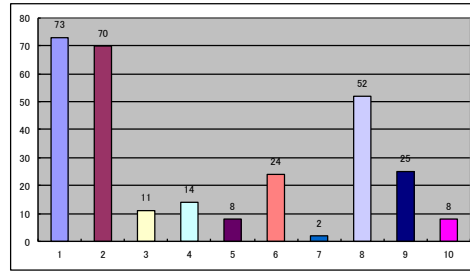
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	79
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	46
3. 学習スキルを向上するための手助け	28
4. 教員の専門分野に触れる機会	23
5. 精神的なケアや励まし	38
6. 授業以外で教員と交流する機会	40



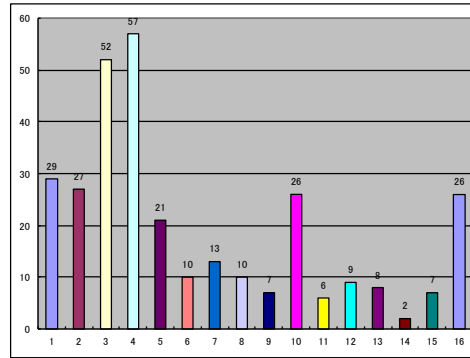
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	73
2. 所属学科の教員の支援	70
3. 所属学科以外の教員の支援	11
4. 事務職員の支援	14
5. 学生相談室による支援	8
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	24
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	2
8. 進路・就職支援の体制	52
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	25
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	8



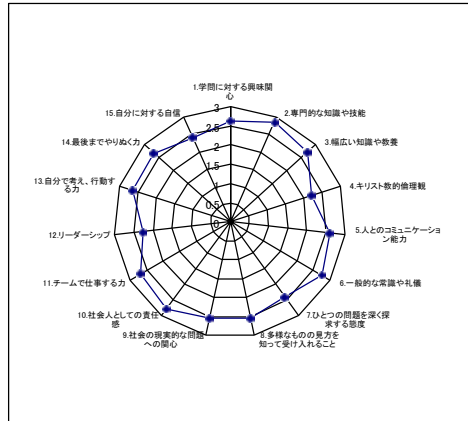
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	29
2. 教室環境	27
3. 図書館	52
4. コンピュータ設備	57
5. 演習・実験・実習室	21
6. 廊下・階段・エレベータ	10
7. 休憩設備(学生ホールなど)	13
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	10
9. 課外活動設備	7
10. ロッカー・トイレなど	26
11. 建物の出入り口	6
12. 駐輪場	9
13. 飲食設備	8
14. バリアフリー	2
15. 大学の開門・閉門時間	7
16. 大学の治安・安全性	26



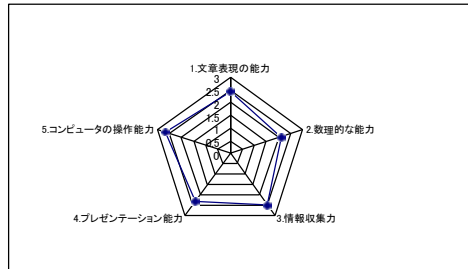
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	104	59	0
2. 専門的な知識や技能	137	27	0
3. 幅広い知識や教養	115	49	0
4. キリスト教的倫理観	49	103	11
5. 人とのコミュニケーション能力	105	56	3
6. 一般的な常識や礼儀	122	41	0
7. ひとつの問題を深く探求する態度	68	95	0
8. 多様なものの見方を知って受け入れること	92	70	1
9. 社会の現実的な問題への関心	89	72	2
10. 社会人としての責任感	130	32	1
11. チームで仕事する力	111	49	1
12. リーダーシップ	46	115	1
13. 自分で考え、行動する力	106	54	1
14. 最後までやりぬく力	108	54	1
15. 自分に対する自信	75	79	9



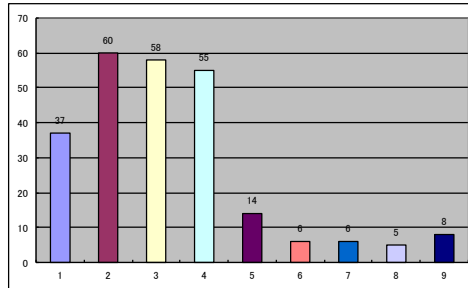
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	70	91	2
2. 数理的な能力	34	114	15
3. 情報収集力	80	82	1
4. プレゼンテーション能力	52	108	2
5. コンピュータの操作能力	110	51	1



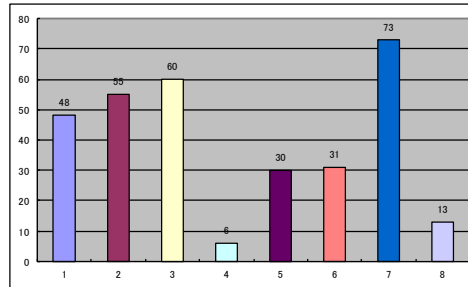
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	37
2. 結婚するまで仕事をしたい	60
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	58
4. 子どもが成長したら再就職したい	55
5. 2~3年腰掛け的に仕事したい	14
6. 家事・家業を手伝う	6
7. 進学する	6
8. 進路はまだ決めていない	5
9. その他	8



問11 全体評価(複数回答可)

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	48
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	55
3. 全般的に学生生活に満足	60
4. 全般的に施設・設備に満足	6
5. 全般的に短大に満足	30
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	31
7. 知識面・人間性において成長した	73
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	13



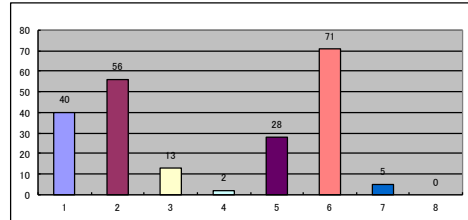
2013年度 卒業生（保育科）

学生生活調査 2013年度

保育科 ABクラス 回答総数：92人

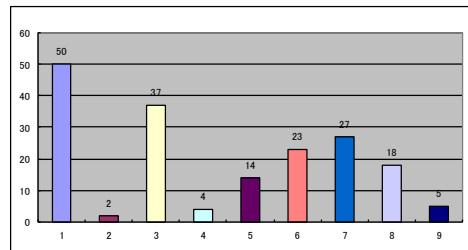
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。(複数回答可)

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	40
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	56
3. 真の友人を得る	13
4. 学問研究を通じて真理を探究する	2
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	28
6. 資格を取り就職に役立てる	71
7. 目的は特に意識していなかった	5
8. その他	0



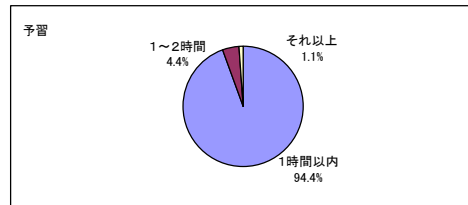
問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

1. 授業に関する勉強	50
2. 授業とは関係ない勉強	2
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	37
4. サークル・クラブ・部活動	4
5. ボランティア活動	14
6. アルバイト	23
7. 友達との交際	27
8. 趣味	18
9. その他	5

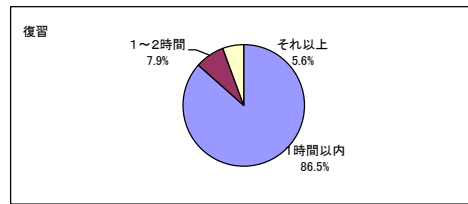


問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

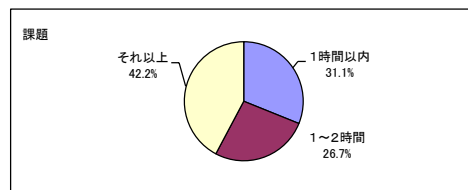
予習	
1. 1時間以内	85
2. 1～2時間	4
3. それ以上	1



復習	
1. 1時間以内	77
2. 1～2時間	7
3. それ以上	5



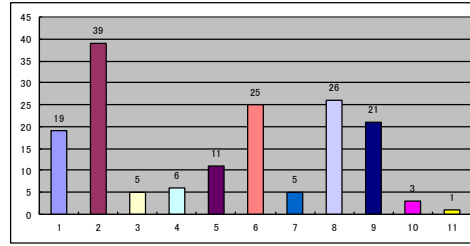
課題	
1. 1時間以内	28
2. 1～2時間	24
3. それ以上	38



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

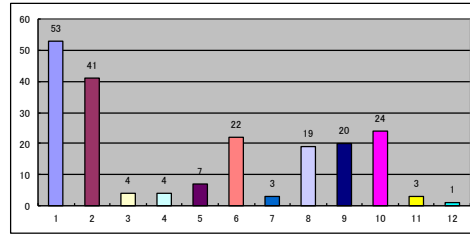
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	19
2. 豊かな教養を身に付ける授業	39
3. 授業方法に工夫がある授業	5
4. 参加意識が持てる授業	6
5. わかりやすい授業	11
6. 興味が持てる授業	25
7. 和歌山地域を指向した授業内容	5
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	26
9. 熱心な指導をする教員	21
10. 適正な成績評価	3
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	1



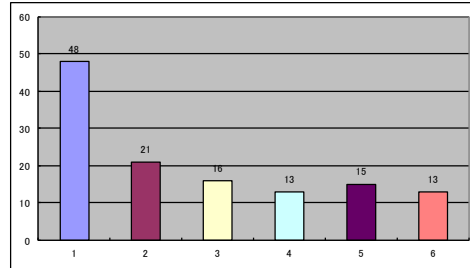
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	53
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	41
3. 授業方法に工夫がある授業	4
4. 参加意識が持てる授業	4
5. わかりやすい授業	7
6. 興味が持てる授業	22
7. 和歌山地域を指向した授業内容	3
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	19
9. 熱心な指導をする教員	20
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	24
11. 適正な成績評価	3
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	1



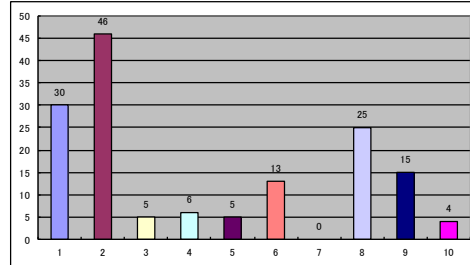
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	48
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	21
3. 学習スキルを向上するための手助け	16
4. 教員の専門分野に触れる機会	13
5. 精神的なケアや励まし	15
6. 授業以外で教員と交流する機会	13



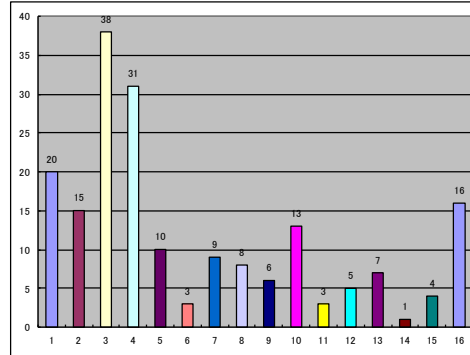
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	30
2. 所属学科の教員の支援	46
3. 所属学科以外の教員の支援	5
4. 事務職員の支援	6
5. 学生相談室による支援	5
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	13
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	0
8. 進路・就職支援の体制	25
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	15
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	4



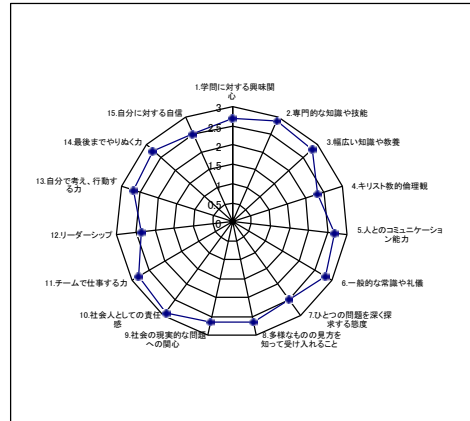
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	20
2. 教室環境	15
3. 図書館	38
4. コンピュータ設備	31
5. 演習・実験・実習室	10
6. 廊下・階段・エレベータ	3
7. 休憩設備(学生ホールなど)	9
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	8
9. 課外活動設備	6
10. ロッカー・トイレなど	13
11. 建物の出入り口	3
12. 駐輪場	5
13. 飲食設備	7
14. バリアフリー	1
15. 大学の開門・閉門時間	4
16. 大学の治安・安全性	16



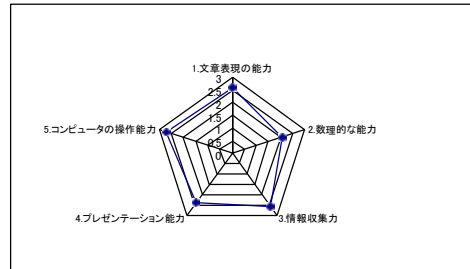
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	64	26	0
2. 専門的な知識や技能	81	10	0
3. 幅広い知識や教養	72	19	0
4. キリスト教的倫理観	33	55	2
5. 人とのコミュニケーション能力	65	24	2
6. 一般的な常識や礼儀	73	17	0
7. ひとつの問題を深く探求する態度	44	46	0
8. 多様なものの見方を知って受け入れること	59	31	0
9. 社会の現実的な問題への関心	61	28	2
10. 社会人としての責任感	82	8	0
11. チームで仕事する力	73	17	0
12. リーダーシップ	33	57	0
13. 自分で考え、行動する力	63	26	0
14. 最後までやりぬく力	70	21	0
15. 自分に対する自信	50	37	4



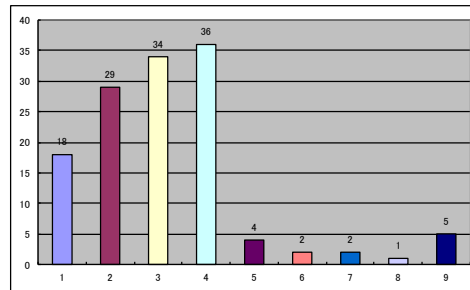
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	54	36	0
2. 数理的な能力	16	67	7
3. 情報収集力	51	39	0
4. プレゼンテーション能力	34	55	0
5. コンピュータの操作能力	66	22	1



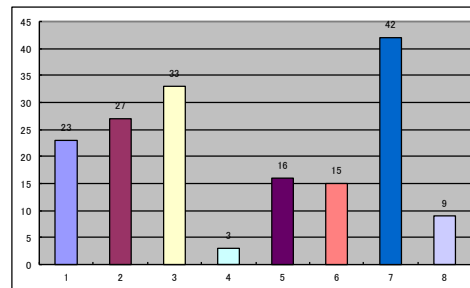
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	18
2. 結婚するまで仕事をしたい	29
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	34
4. 子どもが成長したら再就職したい	36
5. 2~3年腰掛け的に仕事したい	4
6. 家事・家業を手伝う	2
7. 進学する	2
8. 進路はまだ決めていない	1
9. その他	5



問11 全体評価

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	23
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	27
3. 全般的に学生生活に満足	33
4. 全般的に施設・設備に満足	3
5. 全般的に短大に満足	16
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	15
7. 知識面・人間性において成長した	42
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	9



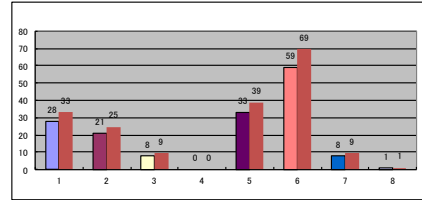
2013年度 卒業生（生活文化学科生活文化専攻）

学生生活調査 2013年度

生活文化学科 生活文化専攻 2年生 回答総数：35人

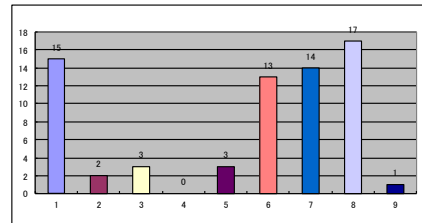
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においできましたか。(複数回答可)

	2013	2014	合計
1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	9	19	28
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	7	14	21
3. 真の友人を得る	4	4	8
4. 学問研究を通じて真理を探究する	0	0	0
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	15	18	33
6. 資格を取り就職に役立てる	28	33	59
7. 目的は特に意識していなかった	3	5	8
8. その他	1	0	1



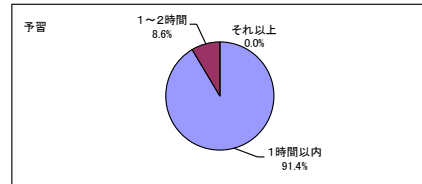
問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

	2013	2014	合計
1. 授業に関する勉強	15	19	34
2. 授業とは関係ない勉強	2	6	8
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	3	9	12
4. サークル・クラブ・部活動	0	5	5
5. ボランティア活動	3	2	5
6. アルバイト	13	26	39
7. 友達との交際	14	20	34
8. 趣味	17	15	32
9. その他	1	0	1

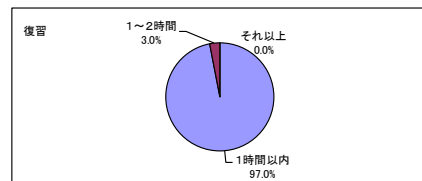


問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

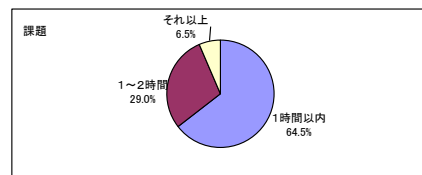
予習	2013	2014	合計
1. 1時間以内	32	39	71
2. 1～2時間	3	5	8
3. それ以上	0	2	2



復習	2013	2014	合計
1. 1時間以内	32	36	68
2. 1～2時間	1	4	5
3. それ以上	0	1	1



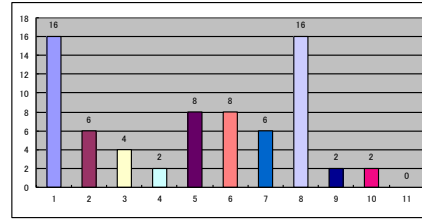
課題	2013	2014	合計
1. 1時間以内	20	23	43
2. 1～2時間	9	13	22
3. それ以上	2	6	8



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

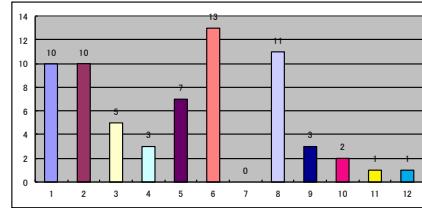
※一般教養・基礎科目

			合計
1. 選択できる授業の多様性	16	25	41
2. 豊かな教養を身に付ける授業	6	12	18
3. 授業方法に工夫がある授業	4	4	8
4. 参加意識が持てる授業	2	0	2
5. わかりやすい授業	8	13	21
6. 興味が持てる授業	8	13	21
7. 和歌山地域を指向した授業内容	6	2	8
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	16	8	24
9. 熱心な指導をする教員	2	4	6
10. 適正な成績評価	2	6	8
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	0	0	0



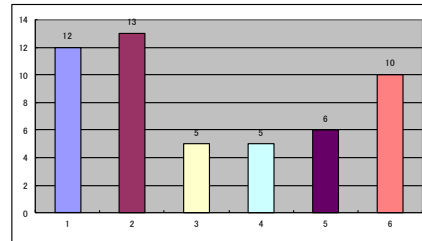
※専門科目

			合計
1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	10	24	34
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	10	9	19
3. 授業方法に工夫がある授業	5	2	7
4. 参加意識が持てる授業	3	2	5
5. わかりやすい授業	7	10	17
6. 興味が持てる授業	13	15	28
7. 和歌山地域を指向した授業内容	0	0	0
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	11	13	24
9. 熱心な指導をする教員	3	1	4
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	2	7	9
11. 適正な成績評価	1	5	6
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	1	2	2



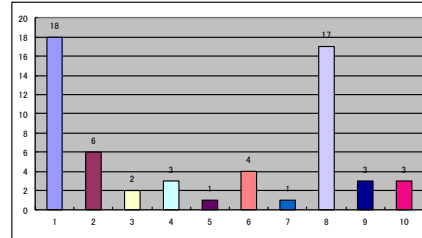
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

			合計
1. 科目履修に関する助言や指導	12	21	33
2. 就職や編入学など進路選択の助まし	13	15	28
3. 学習スキルを向上するための手助け	5	10	15
4. 教員の専門分野に触れる機会	5	6	11
5. 精神的なケアや助まし	6	5	11
6. 授業以外で教員と交流する機会	10	7	17



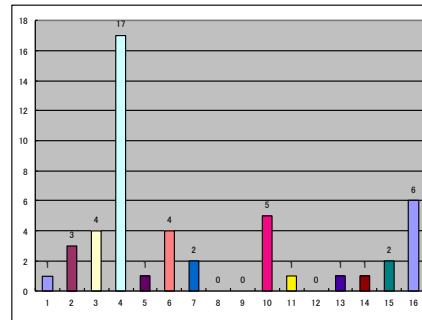
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

			合計
1. 担任による支援	18	9	27
2. 所属学科の教員の支援	6	14	20
3. 所属学科以外の教員の支援	2	2	4
4. 事務職員の支援	3	2	5
5. 学生相談室による支援	1	4	5
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	4	0	4
7. 部活・サークル・学友会等、学生活動を支援する体制	1	3	4
8. 進路・就職支援の体制	17	25	42
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	3	9	12
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	3	0	3

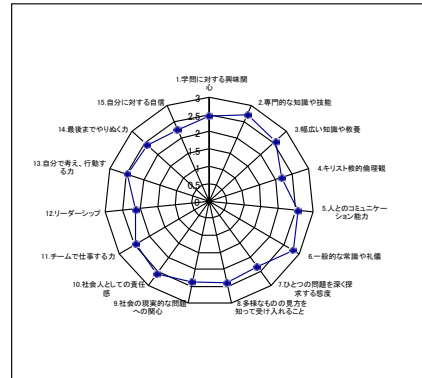


問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

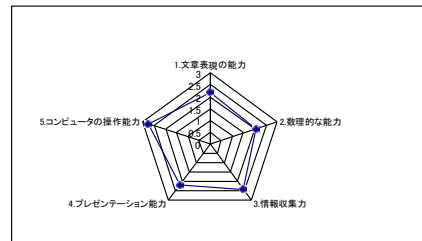
			合計
1. 建物・教室	1	11	12
2. 教室環境	3	3	6
3. 図書館	4	8	12
4. コンピュータ設備	17	25	42
5. 演習・実験・実習室	1	6	7
6. 廊下・階段・エレベータ	4	1	5
7. 休憩設備(学生ホールなど)	2	4	6
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	0	2	2
9. 課外活動設備	0	2	2
10. ロッカー・ルーム・トイレなど	5	8	13
11. 建物の出入口	1	1	2
12. 駐輪場	0	1	1
13. 飲食設備	1	3	4
14. バリアフリー	1	0	1
15. 大学の開門・閉門時間	2	2	4
16. 大学の治安・安全性	6	6	12



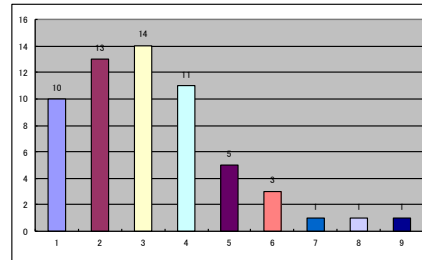
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか	良くなった	変わらない	悪くなった	良くな・変わら	悪くな
1. 学問に対する興味関心	16	19	0	19	27
2. 専門的な知識や技能	25	10	0	36	11
3. 幅広い知識や教養	20	15	0	33	14
4. キリスト教的倫理観	8	25	2	17	26
5. 人とのコミュニケーション能力	20	15	0	26	20
6. 一般的な常識や礼儀	28	7	0	33	13
7. ひとつの問題を深く探求する態度	12	23	0	15	32
8. 多様なものの方を見て受け入れること	14	21	0	23	24
9. 社会の現実的な問題への関心	13	22	0	22	24
10. 社会人としての責任感	20	15	0	23	23
11. チームで仕事する力	15	18	0	20	26
12. リーダーシップ	5	29	0	12	34
13. 自分で考え、行動する力	16	18	0	19	26
14. 最後までやりぬく力	14	20	0	19	26
15. 自分に対する自信	10	22	2	16	28



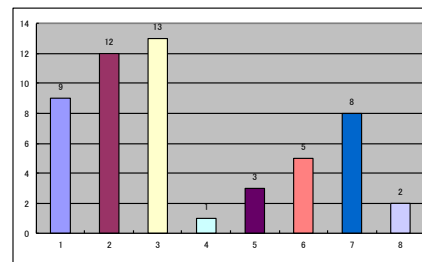
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか	上達した	変わらない	低下した	上達し・変わら	低下した
1. 文章表現の能力	7	27	1	19	26
2. 数理的な能力	7	23	5	9	35
3. 情報収集力	16	18	1	19	25
4. プレゼンテーション能力	8	26	1	8	38
5. コンピュータの操作能力	26	9	0	32	13



問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)	合計
1. 就職して一生仕事を続けたい	10 14 24 28
2. 結婚するまで仕事をしたい	13 19 32 38
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	14 15 29 34
4. 子どもが成長したら再就職したい	11 12 23 27
5. 2~3年懸掛け的に仕事したい	5 2 7 8
6. 家事・家業を手伝う	3 1 4 5
7. 進学する	1 0 1 1
8. 進路はまだ決めていない	1 6 7 8
9. その他	1 0 1 1



問11 全体評価(複数回答可)	合計
1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	9 14 23 27
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	12 19 31 36
3. 全般的に学生生活に満足	13 16 29 34
4. 全般的に施設・設備に満足	1 4 5 6
5. 全般的に短大に満足	3 9 12 14
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	5 9 14 16
7. 知識面・人間性において成長した	8 9 17 20
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	2 4 5



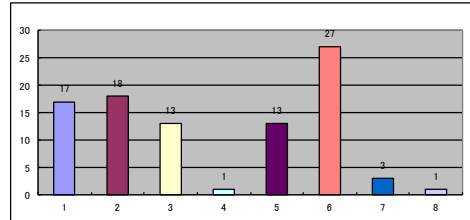
2013年度 卒業生（生活文化学科食物栄養専攻）

学生生活調査 2013年度

生活文化学科 食物栄養専攻 2年生 回答総数：38人

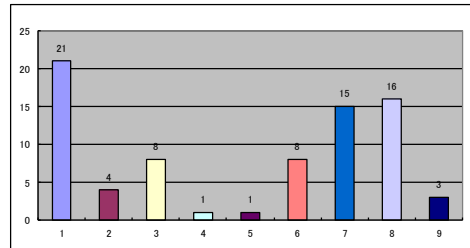
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。(複数回答可)

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	17
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	18
3. 真の友人を得る	13
4. 学問研究を通じて真理を探究する	1
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	13
6. 資格を取り就職に役立てる	27
7. 目的は特に意識していなかった	3
8. その他	1



問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

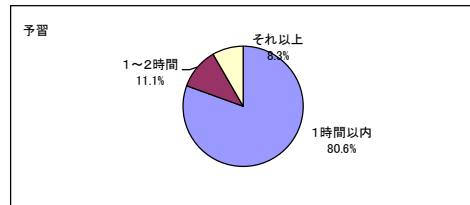
1. 授業に関する勉強	21
2. 授業とは関係ない勉強	4
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	8
4. サークル・クラブ・部活動	1
5. ボランティア活動	1
6. アルバイト	8
7. 友達との交際	15
8. 趣味	16
9. その他	3



問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

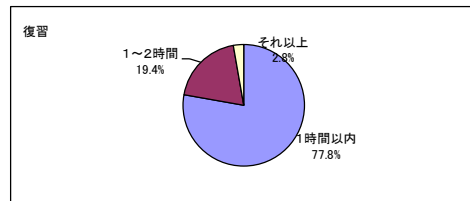
予習

1. 1時間以内	29
2. 1～2時間	4
3. それ以上	3



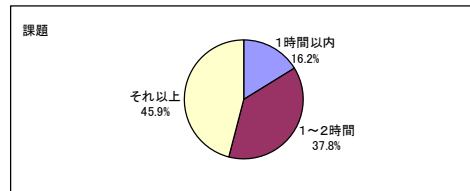
復習

1. 1時間以内	28
2. 1～2時間	7
3. それ以上	1



課題

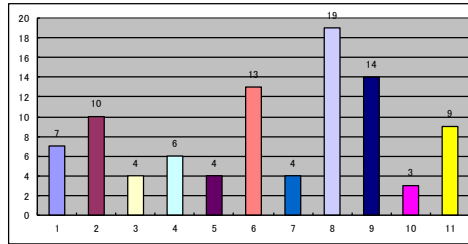
1. 1時間以内	6
2. 1～2時間	14
3. それ以上	17



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

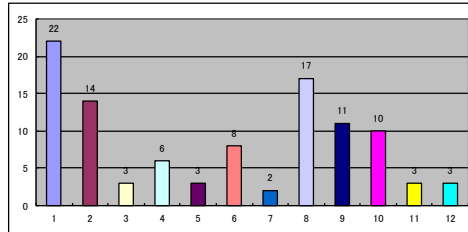
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	7
2. 豊かな教養を身に付ける授業	10
3. 授業方法に工夫がある授業	4
4. 参加意識が持てる授業	6
5. わかりやすい授業	4
6. 興味が持てる授業	13
7. 和歌山地域を指向した授業内容	4
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	19
9. 熱心な指導をする教員	14
10. 適正な成績評価	3
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	9



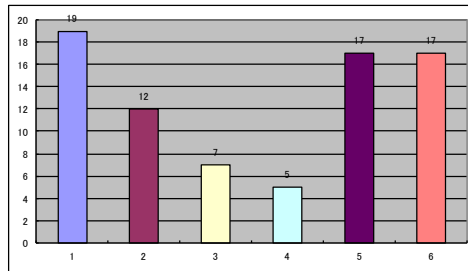
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	22
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	14
3. 授業方法に工夫がある授業	3
4. 参加意識が持てる授業	6
5. わかりやすい授業	3
6. 興味が持てる授業	8
7. 和歌山地域を指向した授業内容	2
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	17
9. 熱心な指導をする教員	11
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	10
11. 適正な成績評価	3
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	3



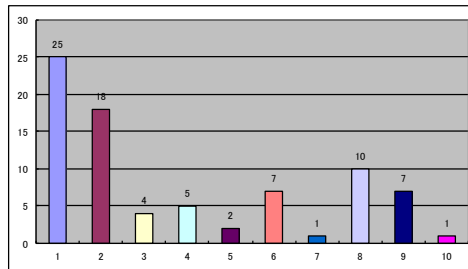
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	19
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	12
3. 学習スキルを向上するための手助け	7
4. 教員の専門分野に触れる機会	5
5. 精神的なケアや励まし	17
6. 授業以外で教員と交流する機会	17



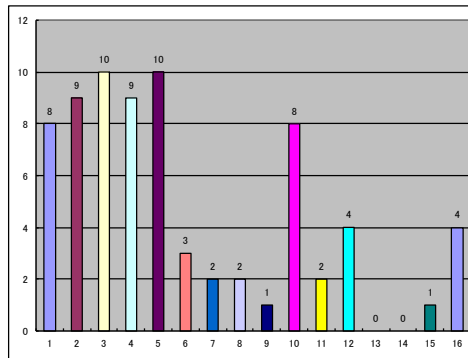
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	25
2. 所属学科の教員の支援	18
3. 所属学科以外の教員の支援	4
4. 事務職員の支援	5
5. 学生相談室による支援	2
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	7
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	1
8. 進路・就職支援の体制	10
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	7
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	1



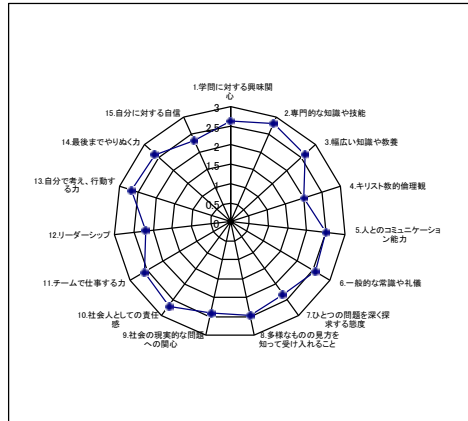
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	8
2. 教室環境	9
3. 図書館	10
4. コンピュータ設備	9
5. 演習・実験・実習室	10
6. 廊下・階段・エレベータ	3
7. 休憩設備(学生ホールなど)	2
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	2
9. 課外活動設備	1
10. ロッカー・トイレなど	8
11. 建物の出入り口	2
12. 駐輪場	4
13. 飲食設備	0
14. バリアフリー	0
15. 大学の開門・閉門時間	1
16. 大学の治安・安全性	4



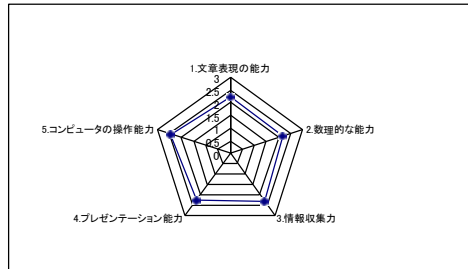
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	24	14	0
2. 専門的な知識や技能	31	7	0
3. 幅広い知識や教養	23	15	0
4. キリスト教的倫理観	8	23	7
5. 人とのコミュニケーション能力	20	17	1
6. 一般的な常識や礼儀	21	17	0
7. ひとつの問題を深く探求する態度	12	26	0
8. 多様なものの見方を知って受け入れること	19	18	1
9. 社会の現実的な問題への関心	15	22	0
10. 社会人としての責任感	28	9	1
11. チームで仕事する力	23	14	1
12. リーダーシップ	8	29	1
13. 自分で考え、行動する力	27	10	1
14. 最後までやりぬく力	24	13	1
15. 自分に対する自信	15	20	3



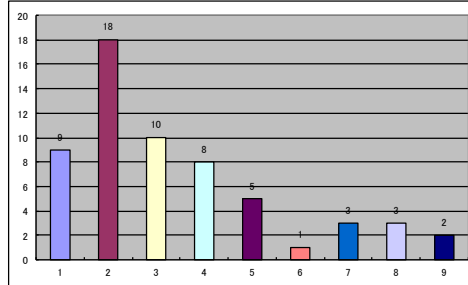
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	9	28	1
2. 数理的な能力	11	24	3
3. 情報収集力	13	25	0
4. プレゼンテーション能力	10	27	1
5. コンピュータの操作能力	18	20	0



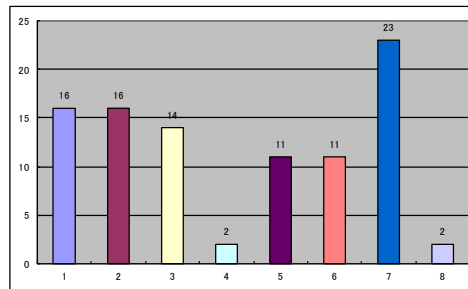
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	9
2. 結婚するまで仕事をしたい	18
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	10
4. 子どもが成長したら再就職したい	8
5. 2~3年腰掛け的に仕事したい	5
6. 家事・家業を手伝う	1
7. 進学する	3
8. 進路はまだ決めていない	3
9. その他	2



問11 全体評価(複数回答可)

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	16
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	16
3. 全般的に学生生活に満足	14
4. 全般的に施設・設備に満足	2
5. 全般的に短大に満足	11
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	11
7. 知識面・人間性において成長した	23
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	2



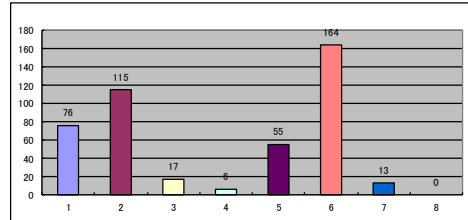
2014年度 新2年生（全体）

学生生活調査 2014年度

全体 回答総数：210人

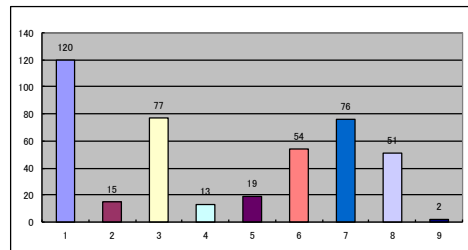
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。（複数回答可）

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	76
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	115
3. 真の友人を得る	17
4. 学問研究を通じて真理を探究する	6
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	55
6. 資格を取り就職に役立てる	164
7. 目的は特に意識していなかった	13
8. その他	0



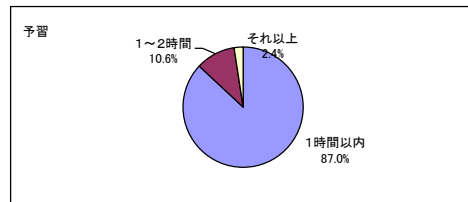
問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

1. 授業に関する勉強	120
2. 授業とは関係ない勉強	15
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	77
4. サークル・クラブ・部活動	13
5. ボランティア活動	19
6. アルバイト	54
7. 友達との交際	76
8. 趣味	51
9. その他	2

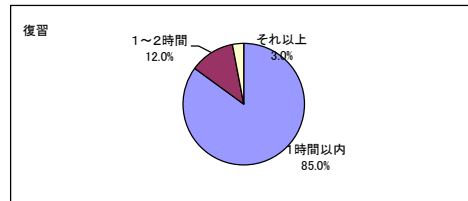


問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

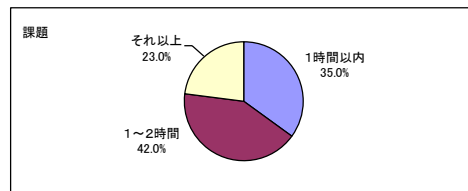
予習	
1. 1時間以内	180
2. 1～2時間	22
3. それ以上	5



復習	
1. 1時間以内	170
2. 1～2時間	24
3. それ以上	6



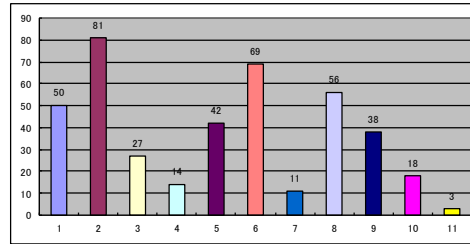
課題	
1. 1時間以内	70
2. 1～2時間	84
3. それ以上	46



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

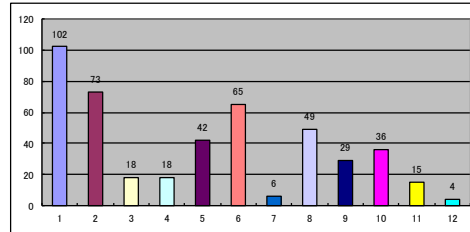
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	50
2. 豊かな教養を身に付ける授業	81
3. 授業方法に工夫がある授業	27
4. 参加意識が持てる授業	14
5. わかりやすい授業	42
6. 興味が持てる授業	69
7. 和歌山地域を指向した授業内容	11
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	56
9. 熱心な指導をする教員	38
10. 適正な成績評価	18
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	3



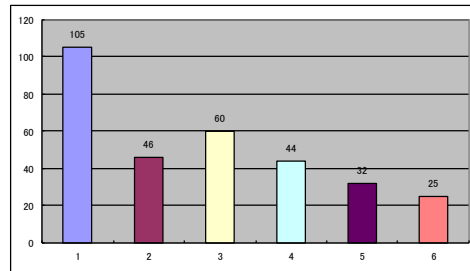
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	102
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	73
3. 授業方法に工夫がある授業	18
4. 参加意識が持てる授業	18
5. わかりやすい授業	42
6. 興味が持てる授業	65
7. 和歌山地域を指向した授業内容	6
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	49
9. 熱心な指導をする教員	29
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	36
11. 適正な成績評価	15
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	4



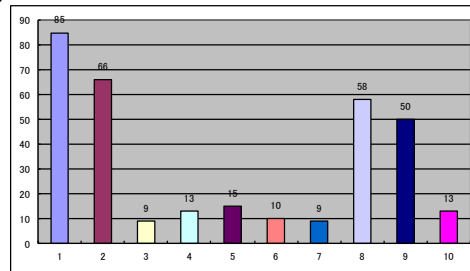
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	105
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	46
3. 学習スキルを向上するための手助け	60
4. 教員の専門分野に触れる機会	44
5. 精神的なケアや励まし	32
6. 授業以外で教員と交流する機会	25



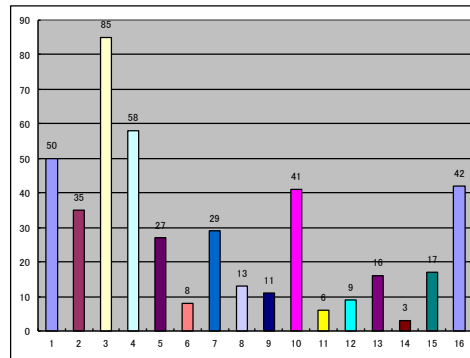
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	85
2. 所属学科の教員の支援	66
3. 所属学科以外の教員の支援	9
4. 事務職員の支援	13
5. 学生相談室による支援	15
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	10
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	9
8. 進路・就職支援の体制	58
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	50
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	13



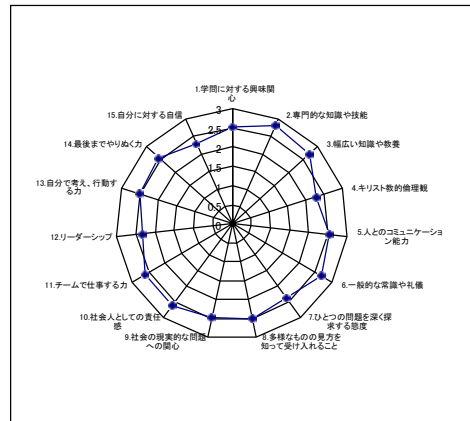
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	50
2. 教室環境	35
3. 図書館	85
4. コンピュータ設備	58
5. 演習・実験・実習室	27
6. 廊下・階段・エレベータ	8
7. 休憩設備(学生ホールなど)	29
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	13
9. 課外活動設備	11
10. ロッカー・トイレなど	41
11. 建物の出入り口	6
12. 駐輪場	9
13. 飲食設備	16
14. バリアフリー	3
15. 大学の開門・閉門時間	17
16. 大学の治安・安全性	42



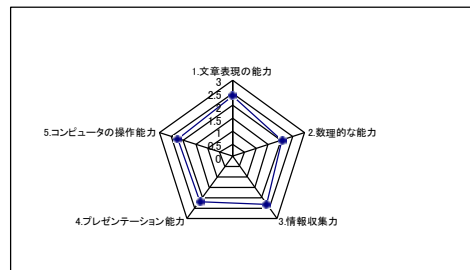
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	122	79	9
2. 専門的な知識や技能	168	40	1
3. 幅広い知識や教養	152	55	1
4. キリスト教的倫理観	71	127	11
5. 人とのコミュニケーション能力	118	90	2
6. 一般的な常識や礼儀	143	64	2
7. ひとつの問題を深く探求する態度	81	127	2
8. 多様なものの方を見て受け入れること	109	98	1
9. 社会の現実的な問題への関心	103	103	1
10. 社会人としての責任感	124	83	0
11. チームで仕事する力	130	72	5
12. リーダーシップ	74	131	3
13. 自分で考え、行動する力	109	96	1
14. 最後までやりぬく力	121	84	1
15. 自分に対する自信	71	120	16



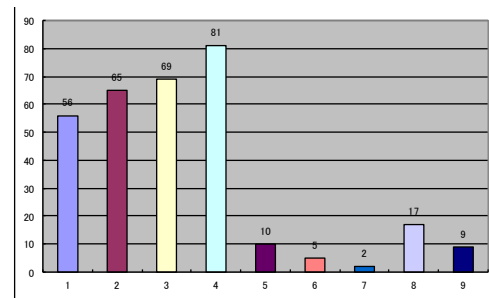
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	81	123	4
2. 数理的な能力	30	161	18
3. 情報収集力	75	128	5
4. プレゼンテーション能力	42	156	6
5. コンピュータの操作能力	53	147	4



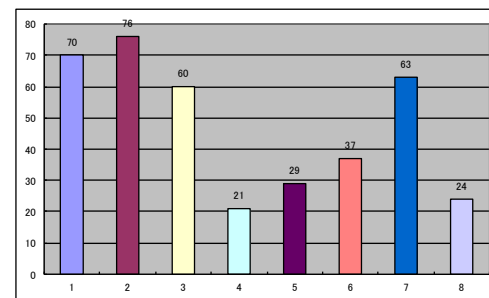
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	56
2. 結婚するまで仕事をしたい	65
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	69
4. 子どもが成長したら再就職したい	81
5. 2~3年腰掛け的に仕事をしたい	10
6. 家事・家業を手伝う	5
7. 進学する	2
8. 進路はまだ決めていない	17
9. その他	9



問11 全体評価

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	70
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	76
3. 全般的に学生生活に満足	60
4. 全般的に施設・設備に満足	21
5. 全般的に短大に満足	29
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	37
7. 知識面・人間性において成長した	63
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	24



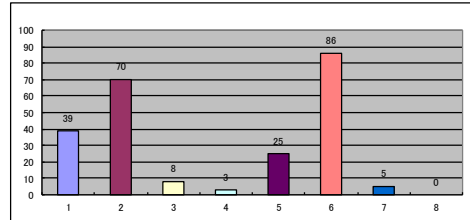
2014年度 新2年生（保育科）

学生生活調査 2014年度

保育科 ABCクラス 回答総数：112人

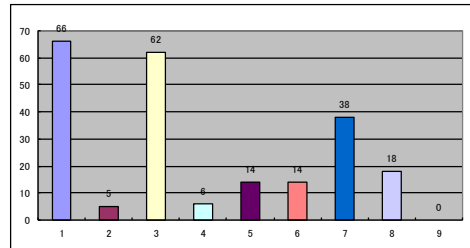
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。(複数回答可)

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	39
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	70
3. 真の友人を得る	8
4. 学問研究を通じて真理を探究する	3
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	25
6. 資格を取り就職に役立てる	86
7. 目的は特に意識していなかった	5
8. その他	0



問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

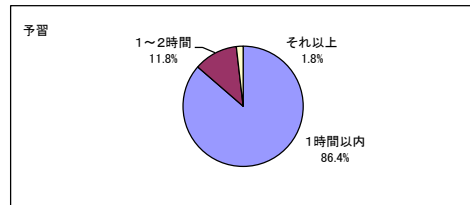
1. 授業に関する勉強	66
2. 授業とは関係ない勉強	5
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	62
4. サークル・クラブ・部活動	6
5. ボランティア活動	14
6. アルバイト	14
7. 友達との交際	38
8. 趣味	18
9. その他	0



問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

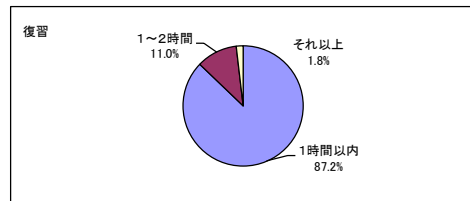
予習

1. 1時間以内	95
2. 1～2時間	13
3. それ以上	2



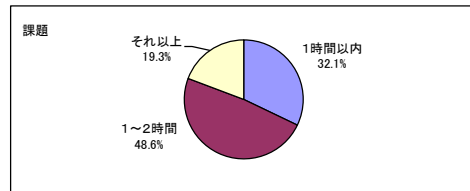
復習

1. 1時間以内	95
2. 1～2時間	12
3. それ以上	2



課題

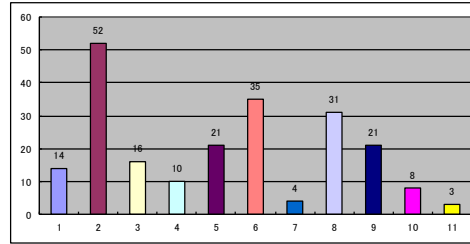
1. 1時間以内	35
2. 1～2時間	53
3. それ以上	21



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

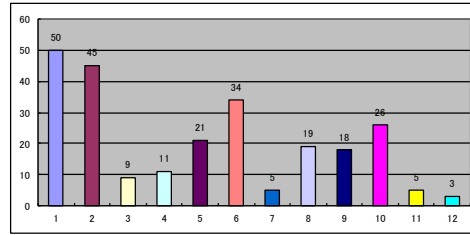
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	14
2. 豊かな教養を身に付ける授業	52
3. 授業方法に工夫がある授業	16
4. 参加意識が持てる授業	10
5. わかりやすい授業	21
6. 興味が持てる授業	35
7. 和歌山地域を指向した授業内容	4
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	31
9. 熱心な指導をする教員	21
10. 適正な成績評価	8
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	3



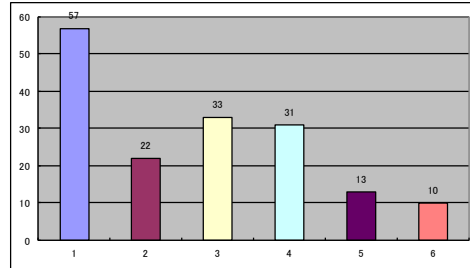
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	50
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	45
3. 授業方法に工夫がある授業	9
4. 参加意識が持てる授業	11
5. わかりやすい授業	21
6. 興味が持てる授業	34
7. 和歌山地域を指向した授業内容	5
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	19
9. 熱心な指導をする教員	18
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	26
11. 適正な成績評価	5
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	3



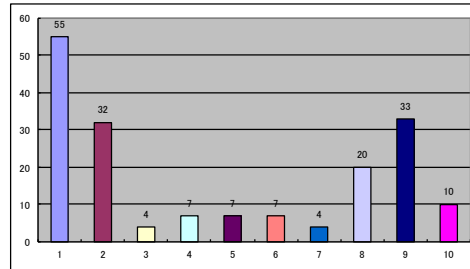
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	57
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	22
3. 学習スキルを向上するための手助け	33
4. 教員の専門分野に触れる機会	31
5. 精神的なケアや励まし	13
6. 授業以外で教員と交流する機会	10



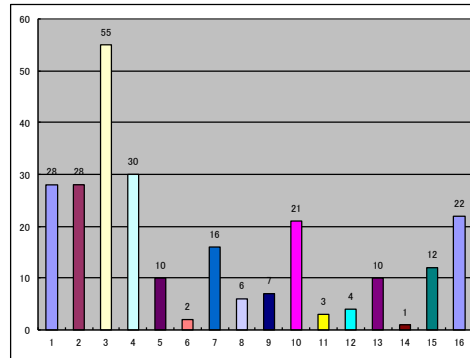
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	55
2. 所属学科の教員の支援	32
3. 所属学科以外の教員の支援	4
4. 事務職員の支援	7
5. 学生相談室による支援	7
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	7
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	4
8. 進路・就職支援の体制	20
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	33
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	10



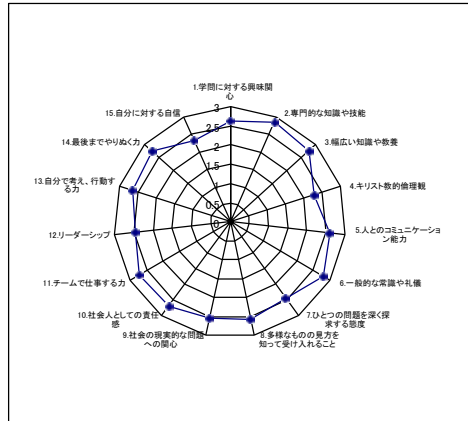
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	28
2. 教室環境	28
3. 図書館	55
4. コンピュータ設備	30
5. 演習・実験・実習室	10
6. 廊下・階段・エレベータ	2
7. 休憩設備(学生ホールなど)	16
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	6
9. 課外活動設備	7
10. ロッカー・トイレなど	21
11. 建物の出入り口	3
12. 駐輪場	4
13. 飲食設備	10
14. バリアフリー	1
15. 大学の開門・閉門時間	12
16. 大学の治安・安全性	22



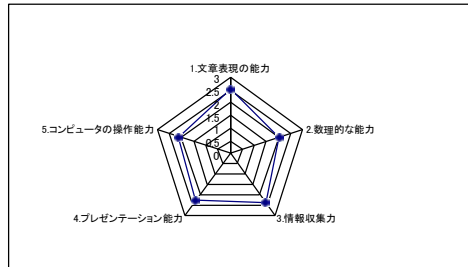
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	78	28	6
2. 専門的な知識や技能	93	18	0
3. 幅広い知識や教養	86	24	0
4. キリスト教的倫理観	35	73	3
5. 人とのコミュニケーション能力	69	43	0
6. 一般的な常識や礼儀	89	22	0
7. ひとつの問題を深く探求する態度	51	61	0
8. 多様なものの見方を知って受け入れること	65	46	0
9. 社会の現実的な問題への関心	61	48	1
10. 社会人としての責任感	77	33	0
11. チームで仕事する力	81	27	2
12. リーダーシップ	56	52	3
13. 自分で考え、行動する力	73	37	0
14. 最後までやりぬく力	81	29	0
15. 自分に対する自信	43	60	7



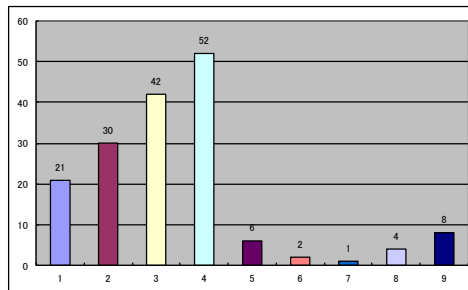
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	57	54	0
2. 数理的な能力	13	89	10
3. 情報収集力	43	67	1
4. プレゼンテーション能力	31	74	2
5. コンピュータの操作能力	17	90	1



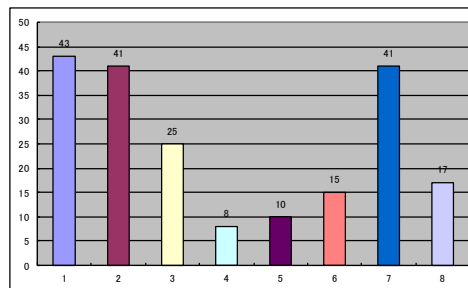
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	21
2. 結婚するまで仕事をしたい	30
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	42
4. 子どもが成長したら再就職したい	52
5. 2~3年腰掛け的に仕事したい	6
6. 家事・家業を手伝う	2
7. 進学する	1
8. 進路はまだ決めていない	4
9. その他	8



問11 全体評価

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	43
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	41
3. 全般的に学生生活に満足	25
4. 全般的に施設・設備に満足	8
5. 全般的に短大に満足	10
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	15
7. 知識面・人間性において成長した	41
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	17



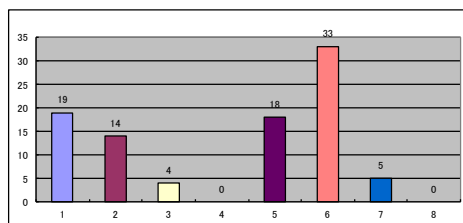
2014年度 新2年生（生活文化学科生活文化専攻）

学生生活調査 2014年度

生活文化学科 生活文化専攻 2年生 回答総数：47人

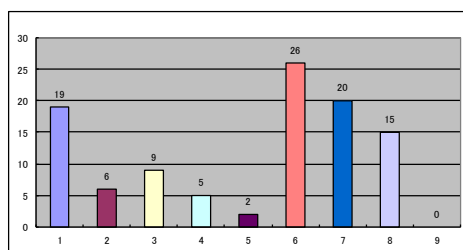
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。(複数回答可)

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	19
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	14
3. 真の友人を得る	4
4. 学問研究を通じて真理を探究する	0
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	18
6. 資格を取り就職に役立てる	33
7. 目的は特に意識していなかった	5
8. その他	0



問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

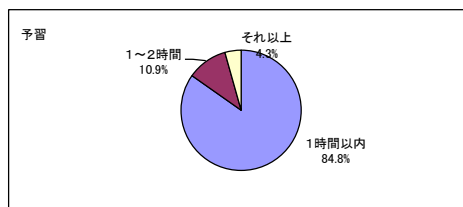
1. 授業に関する勉強	19
2. 授業とは関係ない勉強	6
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	9
4. サークル・クラブ・部活動	5
5. ボランティア活動	2
6. アルバイト	26
7. 友達との交際	20
8. 趣味	15
9. その他	0



問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

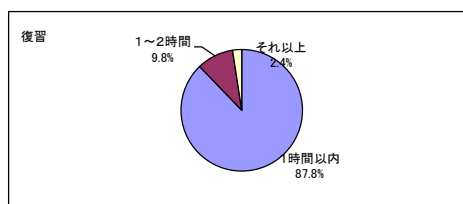
予習

1. 1時間以内	39
2. 1～2時間	5
3. それ以上	2



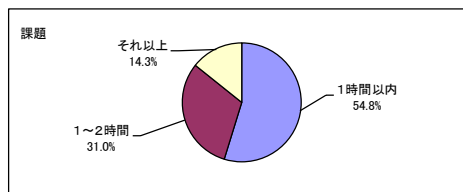
復習

1. 1時間以内	36
2. 1～2時間	4
3. それ以上	1



課題

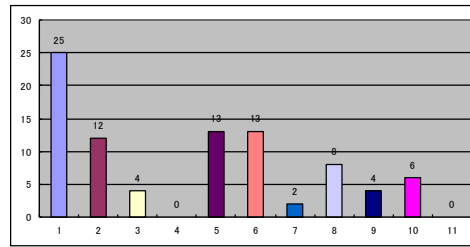
1. 1時間以内	23
2. 1～2時間	13
3. それ以上	6



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

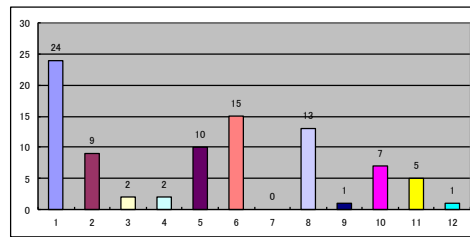
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	25
2. 豊かな教養を身に付ける授業	12
3. 授業方法に工夫がある授業	4
4. 参加意識が持てる授業	0
5. わかりやすい授業	13
6. 興味が持てる授業	13
7. 和歌山地域を指向した授業内容	2
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	8
9. 熱心な指導をする教員	4
10. 適正な成績評価	6
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	0



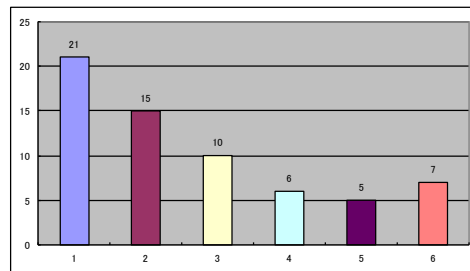
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	24
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	9
3. 授業方法に工夫がある授業	2
4. 参加意識が持てる授業	2
5. わかりやすい授業	10
6. 興味が持てる授業	15
7. 和歌山地域を指向した授業内容	0
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	13
9. 熱心な指導をする教員	1
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	7
11. 適正な成績評価	5
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	1



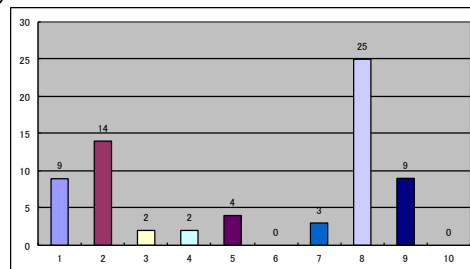
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	21
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	15
3. 学習スキルを向上するための手助け	10
4. 教員の専門分野に触れる機会	6
5. 精神的なケアや励まし	5
6. 授業以外で教員と交流する機会	7



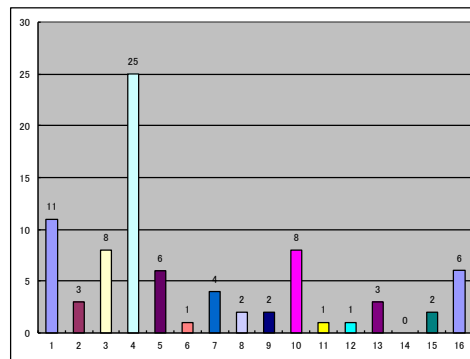
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	9
2. 所属学科の教員の支援	14
3. 所属学科以外の教員の支援	2
4. 事務職員の支援	2
5. 学生相談室による支援	4
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	0
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	3
8. 進路・就職支援の体制	25
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	9
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	0



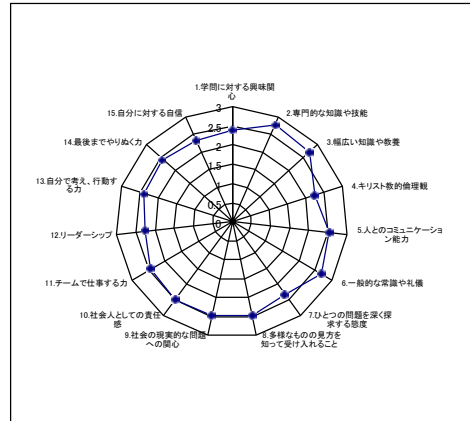
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	11
2. 教室環境	3
3. 図書館	8
4. コンピュータ設備	25
5. 演習・実験・実習室	6
6. 廊下・階段・エレベータ	1
7. 休憩設備(学生ホールなど)	4
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	2
9. 課外活動設備	2
10. ロッカールーム・トイレなど	8
11. 建物の出入り口	1
12. 駐輪場	1
13. 飲食設備	3
14. バリアフリー	0
15. 大学の開門・閉門時間	2
16. 大学の治安・安全性	6



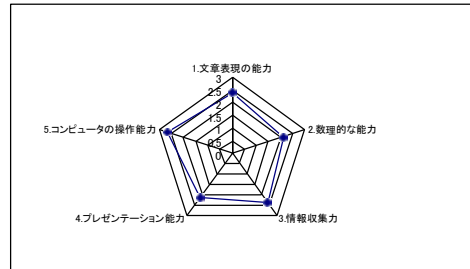
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	19	27	1
2. 専門的な知識や技能	36	11	0
3. 幅広い知識や教養	33	14	0
4. キリスト教的倫理観	17	26	4
5. 人とのコミュニケーション能力	26	20	1
6. 一般的な常識や礼儀	33	13	1
7. ひとつの問題を深く探求する態度	15	32	0
8. 多様なものの方を知って受け入れること	23	24	0
9. 社会の現実的な問題への関心	22	24	0
10. 社会人としての責任感	23	23	0
11. チームで仕事する力	20	26	0
12. リーダーシップ	12	34	0
13. 自分で考え、行動する力	19	26	1
14. 最後までやりぬく力	19	26	0
15. 自分に対する自信	16	28	2



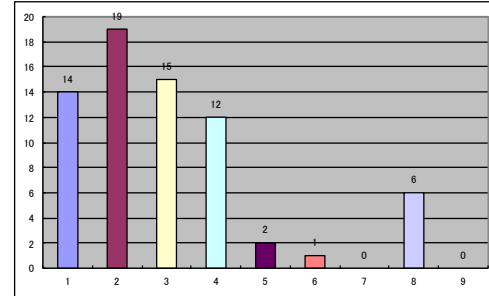
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	19	26	1
2. 数理的な能力	9	35	2
3. 情報収集力	19	25	2
4. プレゼンテーション能力	8	38	1
5. コンピュータの操作能力	32	13	1



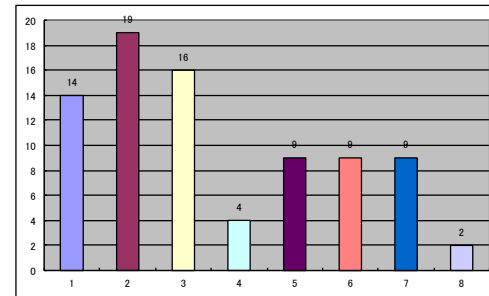
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	14
2. 結婚するまで仕事をしたい	19
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	15
4. 子どもが成長したら再就職したい	12
5. 2~3年腰掛け的に仕事したい	2
6. 家事・家業を手伝う	1
7. 進学する	0
8. 進路はまだ決めていない	6
9. その他	0



問11 全体評価

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	14
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	19
3. 全般的に学生生活に満足	16
4. 全般的に施設・設備に満足	4
5. 全般的に短大に満足	9
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	9
7. 知識面・人間性において成長した	9
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	2



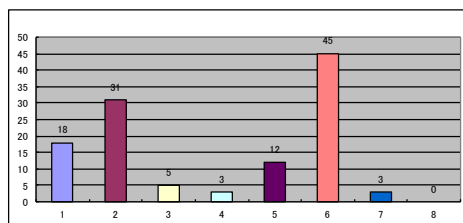
2014年度 新2年生（生活文化学科食物栄養専攻）

学生生活調査 2014年度

生活文化学科 食物栄養専攻 2年生 回答総数：51人

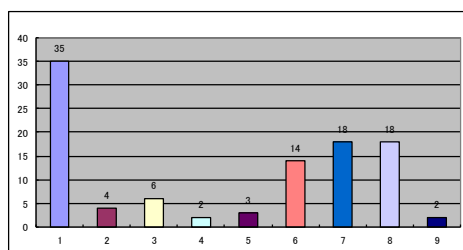
問1 あなたは、学生生活の目的を主として何においてきましたか。(複数回答可)

1. 豊かな教養を身に付け人格を高める	18
2. 専門的な知識や高度の技術を習得する	31
3. 真の友人を得る	5
4. 学問研究を通じて真理を探究する	3
5. 学生生活を通じて青春をエンジョイする	12
6. 資格を取り就職に役立てる	45
7. 目的は特に意識していなかった	3
8. その他	0



問2 あなたは、以下の活動のどれに力を注いでいますか(いましたか)(複数回答可)

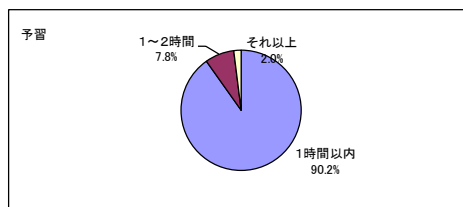
1. 授業に関する勉強	35
2. 授業とは関係ない勉強	4
3. 実習やインターンシップ等、職場での就業体験	6
4. サークル・クラブ・部活動	2
5. ボランティア活動	3
6. アルバイト	14
7. 友達との交際	18
8. 趣味	18
9. その他	2



問3 あなたは、以下の家庭内での学修にどれくらい力を注いでいますか(いましたか)

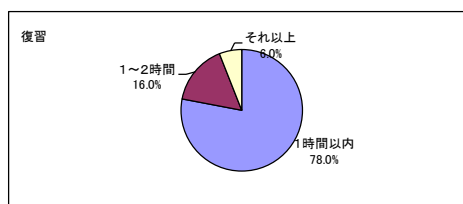
予習

1. 1時間以内	46
2. 1～2時間	4
3. それ以上	1



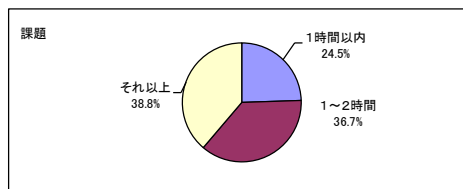
復習

1. 1時間以内	39
2. 1～2時間	8
3. それ以上	3



課題

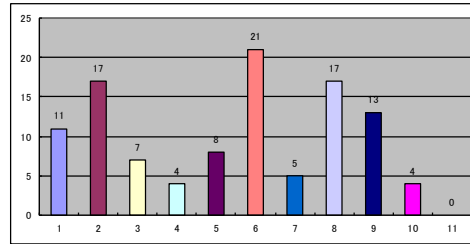
1. 1時間以内	12
2. 1～2時間	18
3. それ以上	19



問4 授業内容・方法について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

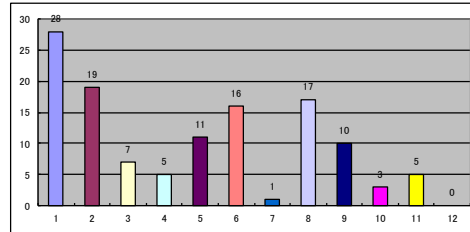
※一般教養・基礎科目

1. 選択できる授業の多様性	11
2. 豊かな教養を身に付ける授業	17
3. 授業方法に工夫がある授業	7
4. 参加意識が持てる授業	4
5. わかりやすい授業	8
6. 興味が持てる授業	21
7. 和歌山地域を指向した授業内容	5
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	17
9. 熱心な指導をする教員	13
10. 適正な成績評価	4
11. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	0



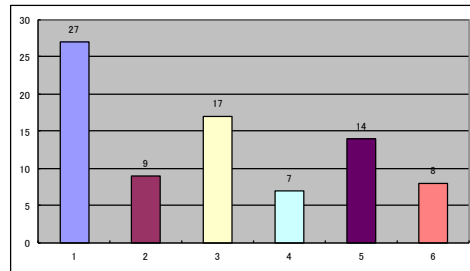
※専門科目

1. 専門的知識や技術を身に付ける授業	28
2. 実践(職業)で役立つ実学重視の授業	19
3. 授業方法に工夫がある授業	7
4. 参加意識が持てる授業	5
5. わかりやすい授業	11
6. 興味が持てる授業	16
7. 和歌山地域を指向した授業内容	1
8. 親しみやすい、尊敬できる教員	17
9. 熱心な指導をする教員	10
10. 学外体験(実習やインターンシップ)の機会	3
11. 適正な成績評価	5
12. 私語が少なく学習環境に配慮されている授業	0



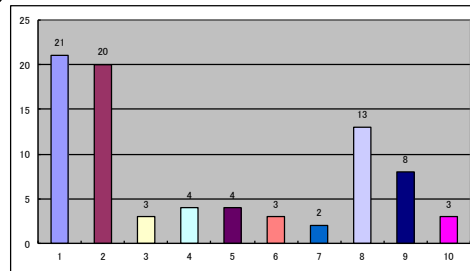
問5 教員の指導について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 科目履修に関する助言や指導	27
2. 就職や編入学など進路選択の励まし	9
3. 学習スキルを向上するための手助け	17
4. 教員の専門分野に触れる機会	7
5. 精神的なケアや励まし	14
6. 授業以外で教員と交流する機会	8



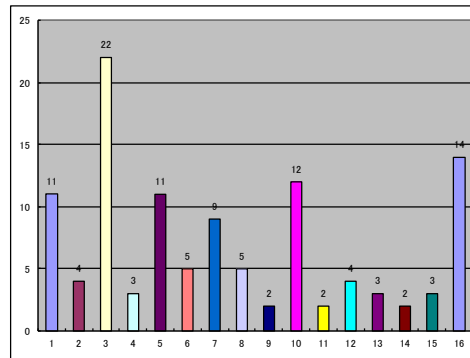
問6 学生生活のサポート体制について以下の教育や学習支援に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 担任による支援	21
2. 所属学科の教員の支援	20
3. 所属学科以外の教員の支援	3
4. 事務職員の支援	4
5. 学生相談室による支援	4
6. 保健室による支援(健康管理を含む)	3
7. 部活・サークル・学生会等、学生活動を支援する体制	2
8. 進路・就職支援の体制	13
9. 学校行事やイベント等を通じた交流の機会	8
10. アルバイトや奨学金に関する情報の提供	3



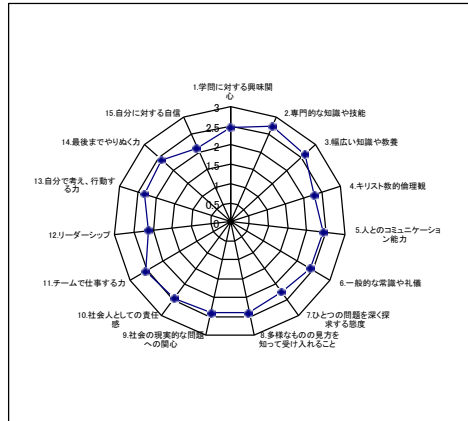
問7 以下の施設に、あなたは満足していますか(複数回答可)

1. 建物・教室	11
2. 教室環境	4
3. 図書館	22
4. コンピュータ設備	3
5. 演習・実験・実習室	11
6. 廊下・階段・エレベータ	5
7. 休憩設備(学生ホールなど)	9
8. 運動設備(体育館・グラウンドなど)	5
9. 課外活動設備	2
10. ロッカー・トイレなど	12
11. 建物の出入り口	2
12. 駐輪場	4
13. 飲食設備	3
14. バリアフリー	2
15. 大学の開門・閉門時間	3
16. 大学の治安・安全性	14



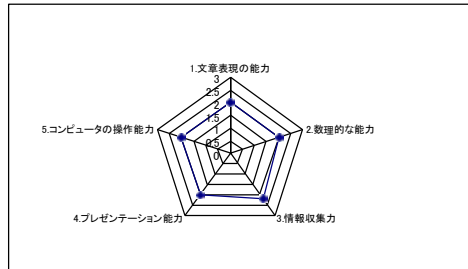
問8 以下の知識・意欲・態度は在学中にどのように変化しましたか

	良くなった	変わらない	悪くなった
1. 学問に対する興味関心	25	24	2
2. 専門的な知識や技能	39	11	1
3. 幅広い知識や教養	33	17	1
4. キリスト教的倫理観	19	28	4
5. 人とのコミュニケーション能力	23	27	1
6. 一般的な常識や礼儀	21	29	1
7. ひとつの問題を深く探求する態度	15	34	2
8. 多様なものの見方を知って受け入れること	21	28	1
9. 社会の現実的な問題への関心	20	31	0
10. 社会人としての責任感	24	27	0
11. チームで仕事する力	29	19	3
12. リーダーシップ	6	45	0
13. 自分で考え、行動する力	17	33	0
14. 最後までやりぬく力	21	29	1
15. 自分に対する自信	12	32	7



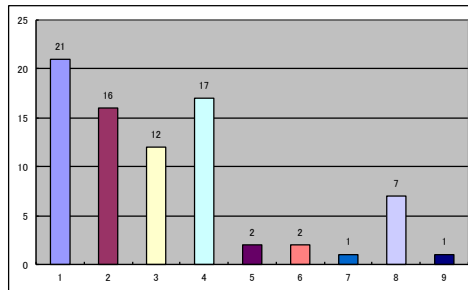
問9 学習能力は、在学中にどのように変化しましたか

	上達した	変わらない	低下した
1. 文章表現の能力	5	43	3
2. 数理的な能力	8	37	6
3. 情報収集力	13	36	2
4. プレゼンテーション能力	3	44	3
5. コンピュータの操作能力	4	44	2



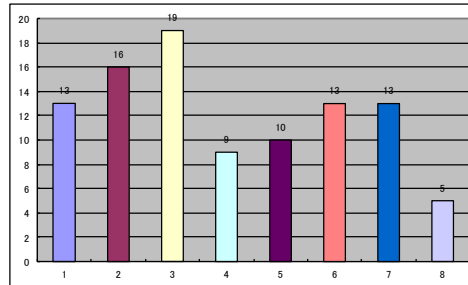
問10 あなたは短大卒業後の進路についてどう考えていますか(複数回答可)

1. 就職して一生仕事を続けたい	21
2. 結婚するまで仕事をしたい	16
3. 結婚して子どもができるまで仕事をしたい	12
4. 子どもが成長したら再就職したい	17
5. 2~3年腰掛け的に仕事したい	2
6. 家事・家業を手伝う	2
7. 進学する	1
8. 進路はまだ決めていない	7
9. その他	1



問11 全体評価

1. 全般的に授業に満足(一般教養科目)	13
2. 全般的に授業に満足(専門科目)	16
3. 全般的に学生生活に満足	19
4. 全般的に施設・設備に満足	9
5. 全般的に短大に満足	10
6. 全般的に所属学科・専攻に満足	13
7. 知識面・人間性において成長した	13
8. 本学への進学を後輩に勧めたい	5



【授業の自己点検評価(教員)】

【教職員アンケート（学習支援関係）】

V. 授業の自己点検評価(教員)について

学生による授業評価を受けて、平成 27 年 1 月に教員による授業の自己点検評価を行った。回収数は 22 名、回収率は 91.7%であった。

1) 集計結果

自己点検評価報告書のうち、各質問項目への回答を 5 段階で求めたところ (1 が最低、5 が最高)、以下の表のような結果となった。比較のために同様な質問項目に対する学生の授業評価結果を示す。

平成26年度 授業の自己点検評価報告書集計結果

質問項目	教員 (22名)	学生による授業評価	
		前期	後期
シラバス通り授業を行いましたか。	3.77	4.12	4.15
丁寧でわかりやすい授業を行いましたか。	4.00	3.97	4.10
明瞭で聞き取りやすい話し方で授業を行いましたか。	4.23	3.98	4.15
資料配付、板書、視聴覚機器の使用等において、学生の授業理解に役立つ工夫を行いましたか。	4.05	3.98	4.14
学生の質問には適切に対応しましたか。	4.14	4.04	4.13
私語等を注意し、学習にふさわしい雰囲気作りを心がけましたか。	4.23	4.08	4.13
授業の開始時間や終了時間を守りましたか。	4.09	4.24	4.23
授業に学生が興味・関心が持てるよう工夫しましたか。	4.10	3.97	4.11
学生が理解しやすいよう授業内容を工夫しましたか。	4.05	3.83	4.04
授業の達成目標を、多くの学生は達成したと思いますか。	3.77	3.91	4.05
学生がこの授業に満足していると思いますか。	3.55	3.94	4.07

2) 結果のまとめと考察

おおむね、学生による授業評価と同様に、授業に対して教員の自己評価も高いという結果となった。比較的、教員の評価が学生の評価と乖離している項目について考察する。

「シラバス通り授業を行いましたか」という質問項目では、教員の評価の方が 3.77 ポイントと、学生の評価よりも約 0.4 ポイント低い結果となった。これは、教員が比較的柔軟に計画を変更しながら授業を進行しているのに対して、学生はその変更気づいていないということを示している。受講学生の状況により、授業の進行や内容の一部が改変されることは許容範囲内であると考えるが、内容がシラバスと大幅に異なるケースがないか、注意を要する結果である。

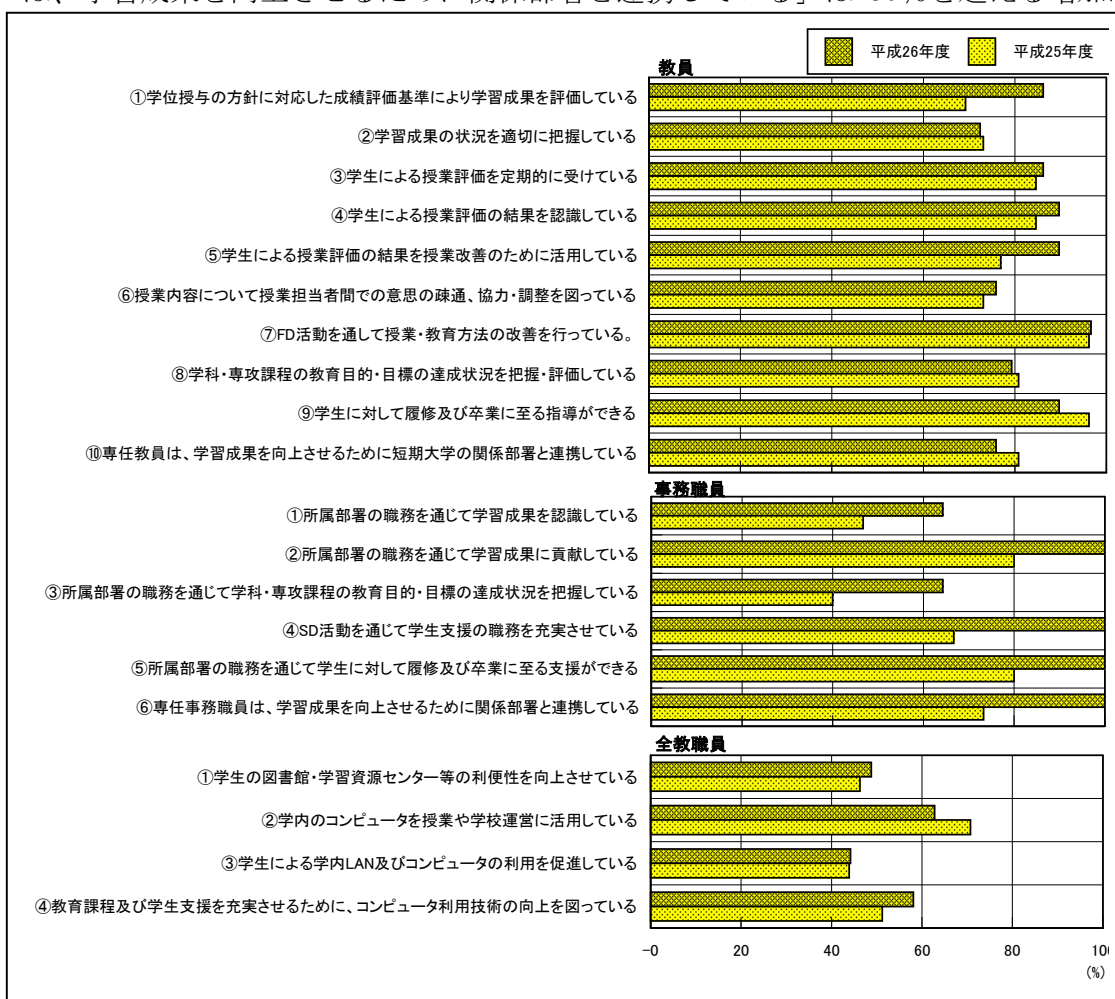
「明瞭で聞き取りやすい話し方で授業を行いましたか」という項目では、教員の評価が 4.23 ポイントに対して、学生の評価が前期 3.98、後期 4.15 と学生の評価の方が厳しくなっている。教員が思っている以上に学生の要求は高い。同様に、「私語等を注意し、学習にふさわしい雰囲気作りを心がけましたか」という項目においても、教員 4.23 ポイント、学生が前期 4.08、後期 4.13 と、教員の評価に比べ、学生の評価の方が厳しくなっている。学生が集中しやすい話し方や雰囲気作りが教員には求められる。

一方、「授業の開始時間や終了時間を守りましたか」という項目や、「授業の達成目標を、多くの学生は達成したと思いますか」、「学生がこの授業に満足していると思いますか」という項目では、教員の自己評価の方が、学生の評価に比べて厳しい値となっている。特に、達成目標の到達度や、学生の満足度について教員の自己評価が厳しいということは、教員の授業改善への意識の高さを示していると考えられる。

VI. 教職員アンケート（学習支援関係）について

平成 26 年度に実施した教職員アンケート（学習支援関係）結果をみると、教員では、「⑦FD 活動を通して授業・教育方法の改善を行っている」が 97%と高く、ついで「④学生による授業評価の結果を認識している」、「⑤学生による授業評価の結果を授業改善のために活用している」、「⑨学生に対して履修および卒業に至る指導ができる」が 9 割を超えていた。平成 25 年度との比較では、「①学位授与の方針に対応した成績評価基準により学習成果を評価している」と「⑤学生による授業評価の結果を授業改善のために活用している」に増加がみられたが、「⑨学生に対して履修および卒業に至る指導ができる」と「⑩専任教員は、学習成果を向上させるために短期大学の関係部署と連携している」に減少がみられ、特に「⑨学生に対して履修および卒業に至る指導ができる」は 7 割と低いことも考慮して一層の努力が必要と思われる。

事務職員では、「②所属部署の職務を通じて学習成果に貢献している」、「④SD 活動を通じて学生支援の職務を充実させている」、「⑤所属部署の職務を通じて学生に対して履修および卒業に至る支援ができる」、「⑥専任事務職員は、学習成果を向上させるために関係部署と連携している」がいずれも 100%を達成しており、平成 25 年度比較でも「④SD 活動を通じて学生支援の職務を充実させている」と「⑥専任事務職員は、学習成果を向上させるために関係部署と連携している」は 30%を超える増加が



みられた。今後、「①所属部署の職務を通じて学習成果を認識している」と「③所属部署の職務を通じて学科・専攻課程の教育目的・目標の達成状況を把握している」は年次推移では増加が見られたが、7割未満と低かったことを考慮する必要があると思われる。

全教職員対象のコンピュータに関しては、全体として先の教員と事務職員の結果に比べて低く、特に「①学生の図書館・学習資源センター等の利便性を向上させている」と「③学生による学内 LAN およびコンピュータの利用を促進している」は5割未満であり、しかも平成 25 年度比較でも増加がみられなかった。「②学内のコンピュータを授業や学校運営に活用している」が減少していることことを含め、今後、授業や業務にコンピュータなど機器を有効に活用することにより学習支援を推進していく必要があると思われる。

平成 26 年度 和歌山信愛女子短期大学

自己点検・評価報告書

(平成 27 年 3 月)

発行：和歌山信愛女子短期大学
〒 640-0341 和歌山市相坂 702 番 2
TEL 073-479-3330